

活の全面に亘るものである。従つて、如何なる順序を経て品性の確立へと向ふものであるかと言ふことを考へてみる。

## 二、實現欲求の誘展

従來の訓練に於ては、躰を、自分でやらうとする心をおこさせずに強制してきてゐた。故に兒童は、道德生活の實現への努力を非常な嫌忌の眼を以て迎へ、非常に苦痛なものとしてゐた。

一體道德の實現は、その人の最高要求であつて、その要求は、單なる要求ではなく、實踐を豫期した要求である。實踐と要求との間には何等の間隙のないものである。苦痛であつて實現はできぬかも知れぬが要求だけはあると言ふべきものではない。實踐力をもつた要求なるが故にその實踐は何等の苦痛はない。實踐しなければ止まない。所謂止むに止まれぬ要求である。故に實踐には何等の苦痛はない。勿論實踐は努力なくしてはできない。

努力と苦痛とは同一の意味ではない。努力は却つて歡喜の裡に行はれるべきものである。殊に實現した後の歡喜は一通りではない。結局上の段階に於ては、兒童をして充分に内省せしめることである。そして、その事項に關する自分の最高要求を掌握せしめることである。教師の規範を興へることではない。止むに止まれぬ自分の要求を凝視させることである。

## 二、實踐方法計畫

實踐要求が旺盛になる。何とかしなければ置けないと發奮する。そこに當然起る問題は、如何なる方法によつて實現するかが問題である。

従來は、大抵教師の訓話が出發點であつた。それは訓話と言ふよりも、むしろ兒童から考へれば小言ときこえるであらう。實踐要求は誘導ではなく、むしろ兒童には反抗心を持たしめ實踐力を萎縮せしめるものであつた。

彼是と小言を言つた後は、教師の規範の通り「かくせよ」「かくすべからず」と實踐方法を指示する。むしろ、従來の傾向から言へば強制する。「今言つた通り出來て居なければ罰する」等と命令以上に出てゆく。かくして兒童は、何等の欲求もなければ、何等の方法の考案もなく、只嫌々實踐を強いられ、不性々々之を實踐する。これでは、身についたものとはならない。實踐方法は、兒童自身が計畫させるがよい。それが少し拙いものであつても、彼等の計畫したことこそ、彼等にとつて非常に實踐力を有してゐるものである。大なる責任をもつてゐるものである。そこに徹底したる實踐がある。若しも、その兒童の實際より見て、今少しの餘裕のあるものと見たときには、一層の構築に努力せしむべきである。個人的に實踐するものとして個人によつて計畫せしめることもあ



らうし、又協同的に計畫させることもある。

何れにしても、實踐計畫は、教師の「かくすべし」「かくすべからず」と言ふ計畫ではなくて、児童自身の計畫によるものでなければならぬ。

### 三、實踐遂行

児童自身の計畫構案したるものは又實踐の可能性をもつたものである。ぜひそうしたいとの實踐欲求に燃ゆるものである。單なる知識としてのものではない。それは強い情意にまで結合してゐるのである。

自分の最高要求としての計畫は、あくまで之を實踐する。それには、大なる努力を要する。それは、先にも述べたるが如く、苦痛としての努力ではない。教師又は自分以外のものから命ぜられて止むなく遂行するときの努力は、相當苦痛なものであらう。然し、自分の肯定したものを自分が實現努力する時には、一步一步の歡喜こそあれ、法悦こそあれ、何等の不平、不満はないのである。

しかし、道德生活は對己、對他、何れの表現と雖も人との關係を絶つものではない。尙成長程度の低い敬虔的自我となるとその實現には幾多の障壁が伴つてくる。或は環境からの誘惑もあらうし内心の最高要求を時に、内心の一部の活動によつて、その實現を不可能ならしめることもある。そ

れは止むを得ないことである。

そうした消長努力がないならば、敢て訓練としての計畫は不必要なものである。その幾多の障壁を適當に鹽梅しつゝ自分の最高要求を如何にして實現するか、これが方法であり、過程である。だから、この過程に於ては、教師の絶えざる督勵が必要となる。相談に預つてやることも必要となる。従來の如く、命令や禁止ではない。同時に児童の失敗毎に發奮するその内心の躍動、信念によつて絶えず努力せしめることが必要である。

### 四、追 體 驗

自我の分裂と統一、内省と領會とによる實現は、人間としての本質的活動ではない。特に難關に邁進した時のことである。本質としては統一活動である。何等の内省と何等の計畫を拂はないで實現するのが、人間の眞の活動である。

道德的習慣による活動、品性による活動、それが人間としての活動である。それは相當修鍊を要するものである。一度實現したからそのことが、いつがきても容易く實現しうるものではない。之を繰り返して實現する處に、そこに一つの型ができて、そのことに對しては極めて能率のあがるやうになるものである。



しかして、最後に言ふと、一分一秒と雖も自分の最高要求は成長してゐる。一時間前に實現した時の最高要求と一時間後の最高要求とは變つてゐる。だから、一時間後に於ては、同じことを實現するとしても一時間前の實現とは自ら異つて來るべきはづである。全くの創造生活である。道徳は場所によつて異なる。人によつて異なる。同じ人を對象としても、一時間前の甲と一時間後の甲とは異なる。そこに實現は自ら異なるべきである。その機會々に應じて何等の努力を拂はず實現し得る様創造生活をなさしめるのが、この過程の仕事である。一度實現して見た通りしか追實現の出來ないやうな人間を創つてはならない。

何等の飛躍のない人間を創つては、それは機械を製造したのと同様である。この過程では、從來考へていた様に、同一のことを單に繰り返すと云ふのがこの過程の仕事であつてはならぬ。習慣練成にはいろ／＼注意すべき必要がある。

一、短い時間に度々繰り返すこと

二、一時に一專を習慣づけること

三、刺戟の強い程能率があがる

四、目的を意識せしめること

五、興味をもたすこと

五、反省批判

實現したことに對しては、必ずその結果から見ても之を内省し、之を批判しなければならぬ。それはその實現に對して、一つの信念を得ることであり、信仰を築くことであり、價值批判することであり、それによつて自己満足を喪失するものである。

それは、その結果に對してよりも、次の生活に對しての導入である。かくして人間の生活は、不斷に於て一歩々々と向上成長してゆくことが出来るのである。

## 六、練習指導の態度

一、兒童の生活をみつめて

練習の指導は、兒童の敬虔的自我の成長促進に外ならない。そのためには自我を觀察しなくてはならない。兒童の姿は千差萬別である。萬人が萬人同じ型にはめようとしてはならない。兒童を凝視するには、道徳生活の成長の程度の低いものを見ればよい。いつも純眞な眼を以て何者にも捉はれないで兒童の姿を眺め、それを根據にして指導しなければならぬ。

二、自分をみかけ

從來、とかく教師と言へば兒童よりも非常に豪いものだと考へてゐた。兒童を成熟者と考へて教



室では壇上に於て壇下の児童を瞰下し、何か少し氣に喰はぬことがあると訓戒して職員室へ児童を呼び寄せ検査か何かのやうな態度で尋問する。さうしたことを以て權威があるのだと考へてゐた。權威は製造すべきものではない。製造した權威では人間は導けない。児童が、教師の愛の血と涙と共に共鳴感激して、その結果、教師を敬するの態度、それが児童の認むる教師の權威である。權威は教師の要求するものではなく、児童の憧憬である。結局教師は自己を磨くことによつて人格の向上發展を圖るより外ない。これが道徳生活實踐指導の上に先づ教師の努めねばならぬことである。

### 三、體驗と體驗の接觸

道徳實踐指導の上に於ては、教師の體驗は非常に貴い。それは児童が參考資料として内省せしめる上のみ貴い。されば、強制してはならぬ。自分が惱んだことは、その人には此上にもない貴いものである。しかし、それが凡ての人に貴いものであるとは言へない。だから、之を強迫する譯にはいかない。

従來、とかく教師の體驗を押賣する場合が多かつた。殊に結果の強迫であつた。教師の體驗は貴いとしても、その結果が貴いのではない。その結果に到達する過程に價值がある。

出發點と經過とその到達點とこの三つの關係がより合理的に、より價值的に、より經濟的になつ

た時、價值があるのである。

教師は、自分が見童であつたときの各種の生活の實際を知つてゐることは極めて大切である。

### 四、獎勵的態度

敬虔的自我は旺盛なる活動本體である。従來の道徳生活實踐指導は、どうかすると、石地藏の様な人間を造つてゐた。教室では首も挺らない、運動場では、木の本や、校舎の柱に始終もたれかゝつてゐるやうなものを創つてそれが訓練に成功したものと考へてゐた。

道徳的模範者は去勢者ではない。去勢者は到底社會に於て活躍のできるものではない。社會の落武者である。學校に於てヤンチャ者として、教師を相當手古摺らしたものが社會に出て後成功してゐることも考へねばならぬ。

常にその指導の態度は「汝の最上の要求をなせ」「汝にはより以上の要求がある筈だ」「汝は必ずより以上の事を実現する力を持つ」と激勵することである。

### 五、自己開拓

道徳生活體現指導は、自我を内省せしめて、より高き實現へと努力せしめるより外はない。教師が代つて最高要求を考へたり。教師が代つて實現してやることではない。實現しないことを訓戒し



たり懲罰したりすることではない。罰戒は懲罰や訓練の方法ではない。之が方法である間は人間は生れない。それは、教師の心の奥底に秘めておくべきものである。之は一代使はぬだけの腹が必要である。最後の最後のものである。一度使へば又とその人間には使はないと言う如き場合に使うべきものである。

訓練の方法は、彼等をして内省させることである。内省せぬ前に規範を興へたりしてはならぬ。最上要求か否かを究明させることである。そして自我の肯定したものを實現させるべきである。教師の指示だからと言つて、盲従としてはならぬ。實現の方法を自ら探究さすべきである。彼等の撰擇意志を何處までも尊重すべきである。そして、それを實踐するやう努力させるべきである。六、急がずしかもたゆむな

教師は、常に児童の自我の要求をみつめて、助成してやれば必ず成長の時機は来る。躰は、急いではならぬ。うますたゆますくりかへすことである錬成である。

## 第五章 初一・二健康教育実践細案

### 第一節 健康教育論

現在の重大時局を解決するには、物的資源の必要は今更言ふまでもないが、人的資源はより以上に重要であり、従つて國民の健康そのものは重要な國防人的資源である。盟邦ドイツのナチス國民教育の理想は「學問より健康」である。教養があつても理窟ばかりいつてゐる實行力のない輩は今ドイツでは虫ケラ同様だとは、そつくりそのまゝ現在の我が國の現状にもあてはまるのであるからして、先づ國民の體位がより一層の重要性を以て問題とされる。「國民體位の向上は兒童から」とは、我々が今日直に着手して、成果を擧げるやうに努力しなければならぬ營爲の分野なのである。

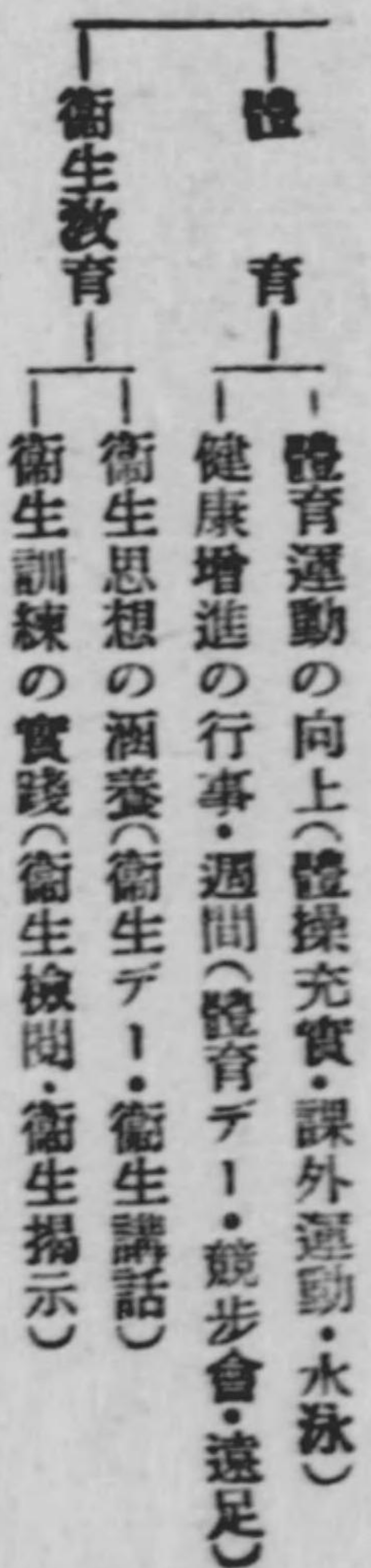
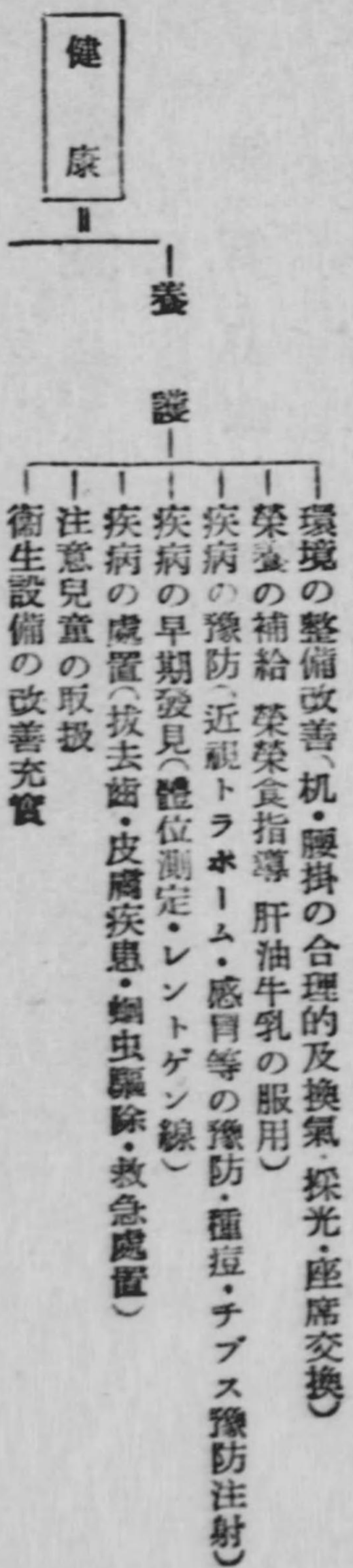
#### 初一・二健康教育方針

(一) この時代の児童は心身の發育が幼稚であるから、餘り無理をしない。殊に身體の弱い兒童には、溫い心をもつて指導してやる。



- (二) 兒童と行動を共にして快活な遊びを奨励し精神を爽快にすると同時に身體の發育を圖る。
- (三) 常に兒童の顔色や動作に注意して異状のある時は速やかに手當を怠らぬやうにしてやる。
- (四) 諺に「眠る子は育つ」と言ふことがある。睡眠は心身の發達と活動と共に缺くことの出来ないものである。兒童は學校生活が始まると共に早起し睡眠時間を妨げられるものであるから、父兄によく注意させる。
- (五) 身體の諸機能の健全をはかり心身の發育を旺盛にするのは主として家庭である。それで家庭訪問を時々行つて、兒童身體の狀況を述べ、食物、睡眠、清潔、疾病等に関して注意を促し又兒童にも必要をのべて自覺して虚弱に陥入れぬ様に注意させる。

### 第二節 健康教育の實踐體系



### 第三節 初一・二の健康教育實踐

- (一) 體位の向上 體位の向上は兒童の自覺性を基礎として、その上に實踐は強化されねばならぬ。初一・二の兒童にとつては、自分の體位の自覺や、その體位に即應する向上方案の實踐の完全性は求めることは出来ないけれども、その方向に進ませることを根本態度とすべきである。
- (二) 體位向上實踐の個性化
- (三) 體位向上生活の習慣化 (次のやうなことに注意する)
  - 1、常に兒童の疲勞や心身の狀態に注意して適當な處置をとること。
  - 2、耳、鼻、口、皮膚等は特に清潔にさしたい。
  - 3、乳齒脱落に對する注意、永久齒に對する注意を怠らぬこと。



- 4、姿勢については常に胸のはつた下腹部に力のある姿勢をとらせること。
- 5、深呼吸の奨励、鼻呼吸、換氣法に注意すること。
- 6、衣服についての注意。
- 7、授業時間の長短。
- 8、食前、食後の教育
- 9、入浴について
- 10、皮膚、頭髮について
- 11、手拭、塵紙の持参
- 12、日光浴、砂遊び

(四) 生活本然の相に即して 衛生といひ、鍛錬といひ、それは、あくまで児童生活の本然の相に即してゆかねばならぬ。行きすぎると害がある。

(五) 生活環境への配慮、児童體位の向上は、児童の生活環境に大なる關聯を持つ。児童體位の向上は児童個人の努力と共に、その目的實現に協力する家庭或は學校である様に生活環境への配慮が注意されねばならぬ。

(六) 健康教育の二大分野は 「養護」と「鍛錬」であるが、その力點は學年によつて差異のあるべきことは言ふまでもない。體力も未だ幼稚で、従つて抵抗力も乏しい初一・二時代は兎角疾病にかゝり易いものであるから、「養護」を中心とし、更に初一・二相應の「鍛錬」を試みて、健康を増進せしめるやうに圖るべきである。

(七) 休養訓練 特に、注意せなければならぬのは睡眠である。次の表によつて見ると、初一・二兒童は、十時間半乃至十一時間の睡眠時間を要するのである睡眠による休養は單にその「時間的長さ」のみならず「睡眠の深度」にも關係があるので、兩面から十分注意を喚起したい。

平均睡眠時表(文部大臣官房調査)

年齢	男	人	女	人
七—八	一〇〇八	二五六	九・五九	三〇〇
八—九	九・五五	三四〇	九・五三	三五—
九—一〇	九・四五	三〇七	九・五四	三二七
一〇—一一	九・四一	三一四	九・三一	二五七
一一—一二	九・三一	二六一	九・一八	二七三
一二—一三	八・五〇	二六四	八・五〇	三〇九

疲勞を恢復させる。

注意の持続力の低い、初一・二兒童は、よく休養させることが必要であり、又、食後三十分位は教室内に留めて、身體の激動を防ぎ消化機能を十分ならしめる。

(八) 寄生虫驅除 蛔虫・蟻虫等は榮養を不良ならしめたり、神經を刺戟したりして知能障害を起す。それ故にマクニン、海人草等を用ひて驅除させて、その排虫數を記録する。又、女兒の頭髮



の虱は水銀石鹼で驅除し、又、その卵をとり傳播を防止する。

(九) 歩力鍛錬 「戦は歩くことである」と言はれてゐる。又「脚と齒の丈夫な人は長壽である」とも言はれてゐる。歩くことが心臓や腎臓によい影響を齎すのは言ふまでもないことであり、特に國防人的資源としての第二の國民の脚力鍛錬は我々に課せられた一大課題である。だから、

- 1、春秋の遠足・ハイキング・學校競歩會等の施設により、困苦缺乏に堪へると共に、脚力鍛錬をする。
- 2、縄跳び、幅跳び等を家庭遊戯として生活化させ、そのレコード記録も姉妹兄弟友人間で協同社會生活的に營爲させる。

3、登校・下校・お使ひ等はなるべく歩行によらしめて、脚力を鍛錬する。  
等によつて、脚力鍛錬に邁進させる。

(十) 國防競技鍛錬 専門化し選手制度化し個人化した競技は、國民國防競技として國民全體性の方向に止揚されねばならぬ。走力・跳躍力・懸垂力・握力・投擲力は國防資源そのものとして、蓄へられ、整備されなければならぬ。近來日本武術の「突く」「撃つ」「當身」の三基本を應用した、腹をつくる所の日本の性格の體操へとすまねばならぬ。これ等の指導の強化は初一・

二兒童に對しては、直接的には未だ早過ぎるかも知れぬが、それらの目標の下に體育鍛錬を瘡々と進めて行くことは必要な心構である。

(十一) 腕力鍛錬 腕力は單なるそれではなく、體力の全體的表現である。戦線に立つては、工兵として歩兵の渡る橋を支へたり、歩兵としては城壁を攀登り、手榴彈を投擲し、的中させねばならず、その他何れの兵となつても臂力を要する第二の小國民である。それ故に體育に於て腕力を鍛錬することも亦重要である。

(十二) 體操生活化鍛錬 體操教材は、家庭生活化され、遊戯生活の中に鍛錬されなければならぬ

- 1、毎朝深呼吸をしたり、懸垂運動を盛にやつたりして肺活量を増大させる。
- 2、鐵棒や肪木で遊ばせたり、木登り等をさせ、或は又相撲倒立等をさせて、脊筋力、握力、懸垂力、臂力を練る。
- 3、縄とびを兄弟姉妹でさせたり、柱にしるしをつけて繩をはつて跳ばせたり、或特定の場所から跳ばせ跳躍力を自覺的に測定させたり、友達同士で測定させたりする。
- 4、陣取り等の走る遊戯、お使は必ず歩行でといふ様に脚力を鍛錬する。
- 5、野球、キャッチボール等により、投擲力を生活的に鍛錬させる。



(十三) 氣魄鍛鍊 興亞の大業を完成すべき日本人は、長期建設には「耐久不撓の精神力」の氣魄が要請され、又アジアの天地に雄飛する日本人は、時と場に於て頭上にふりかゝる不時の理不盡の暴力を拂ひのけて立つ剛毅不屈の氣魄が必要である。之等の毅然たる氣魄は同時に、鐵の肉體に宿るものであり、體育鍛鍊は結局に於て、この氣魄の鍛鍊に歸せねばならぬ。

1、遠足・競歩會等に於ける堅忍持久の氣魄の鍛鍊。2、試膽會等により日本武士道に立つ氣魄の鍛成。

簡單なものからでも、積極的旺盛な氣魄は徐々に集積されて行くのであり、従つて、この營爲の方向線をはるかに望んで實踐に出發すべきである。

#### 第四節 初一・二健康教育實踐細案

##### (一) 初一・二四月の健康教育實踐細案

〔四月の養護實踐指標〕養護といふと何となく消極的な部分の様に考へられ、健康保健といへば前者に比して積極的な教育を施してゐる様に考へられるが、結局するところは健康保健といふも衛生養護と言ふも、共に兒童の身體の健全な發育進展を念願する希望に外ならない。初一・二に於ては

積極的な健康教育施設も必要なことではあるが、それにもましてその前提として養護衛生方面の指導が必要である。先づ消極的ではあつても、養護といふ地盤を作つた上に健康と行くのでなければ、さながら砂上の樓閣に類するのである。それには先づ、その兒童の生活をよく見詰め、兒童の生活を安全にするばかりでなく、その上に進んで兒童を健康に導いて行くやうにする。

又、兒童各自の身體狀況を知悉しておかねばならぬ。即ち、初一に於ては入學前の身體検査の結果併に父兄の申告による出生以來入學に至るまでの身體の狀況を知ること、初二に於ては、初一來一ヶ年間の平素の學校に於ける兒童身體狀況及び四月に行ふ校醫の身體検査の結果を見て兒童一人々の身體的個性を調査して行く。次には、兒童の生活する家庭、社會といった環境を調査する。かゝる調査に基づき、健康兒童、微熱のある虚弱兒童、特殊の身體を有する兒童といった風に大別する。更に、一人々々の養護調査表を整へておく。

##### 第一週 (入學式)

##### 〔養護要項〕

一、初一に於ては、この世に生を享けて初めての學校生活へ歩を踏む關門の日である。國民科修身社會生活の第一歩としての學校生活を營むのであるから、身體的變化が、そこに生ずるから與々



も注意せねばならぬ。

二、初二に於ては、過去一ケ年間の學校生活で、生活にもなれてをり、このよい時期にすく／＼と伸びさせ、心身共に發育させるやうにせねばならぬ。

〔關聯教科〕

國民科修身 初一「ガクカウ」 初二「一、二年生」

第二週（座席變更）

〔養護要項〕

一、初一の當初に於ては、自家の近所の級友、即ち兒童相互に見知り合ひの親友同志を同席させる然し、なるべく身長と机や腰掛の號數をあはせる。

二、初二に於ては、養護を主として身長順に排列し、特殊な異常兒は教師の近くに席をとつてやる

〔關聯教科〕

國民科修身 初一「一ガクカウ」 初二「一、二年生」

第三週（郊外遠足）

〔養護要項〕

一、遠足先は、櫻花咲き亂れる郊外や神社佛閣が適當であらう。

二、不意の障礙や突發事件のおこらないやうに緻密な計畫を必要とする。

三、兒童の疑問に答へたり、指導したりすることを忘れないやうにする。

〔關聯教科〕

藝能科音楽 初一「四、エンソク」

第四週（身體検査）

〔養護要項〕

一、校醫の診断に基き、各自の身體狀況を知悉するやう努力すること。

二、異常兒には、その矯正法を考へ父兄にも通知して連絡をすること。

三、初一・二に於ては、學習姿勢の不正から脊柱彎曲になるものが多いから注意する。

〔關聯教科〕

國民科修身 初一「一、ガクカウ」 初二「一、二年生」

(二) 初一・二五月の健康教育實踐細案

〔五月の養護實踐指標〕本月は、校外教授が行はれるが、これは學習や訓練方面からも重要視すべき部面が多分にあるが、この機會に身體鍛鍊といふ方面からも注意すべき部面が存する。又、本



月初旬には年中行事の一たる端午の節句があるが、これは現在の兒童を鯉の様に隆々たる身體に發達させることを希念する國粹的行事であるから有効に利用する。

第五週 (端午の節句)

〔養護要項〕

- 一、端午の節句についての訓話をなし、鯉轍に、あこがれの氣分をもたせる。
- 二、校庭に國旗掲揚塔を利用して大きな鯉轍を掲揚する。
- 三、相撲・綱引・競走等を行はせる。

〔教科關聯〕

國民科修身 初二「三、五月ノセツク」

第六週 (校外教授)

〔養護要項〕

- 一、場所を、豫め調査し決定しておくことが大切である。
- 二、保護者に通知して、校外教授について知らせておき理解を求めておく。
- 三、正常歩の指導をすること。秩序の訓練をすること。

〔教科關聯〕

理數科理科 初一「八、草花採り」

初二「五、春の島」

第七週 (小運動會)

〔養護要項〕

- 一、五月晴のよい天氣の日に小運動會を開催する。
- 二、小運動會によつて、運動愛好の精神、正々堂々たる競争の精神を培ふ。
- 三、秩序、規律をまもらしめ、團體的訓練をすること。

〔教科關聯〕

理數科算數 初一「運動會」

第八週 (海軍記念日)

〔養護要項〕

- 一、海軍記念日の講話を行ひ、自分達も成人の後には、國家に奉公して大海戰當時の勇士に優るとも劣らぬ體力の養成に資すること。
- 二、旗行列又は神社參拜、忠魂碑參拜等の行進をする。

〔教科關聯〕

國民科國語 初一「ラツパノエヲカキマシタ」 初二「九、軍かん」



藝能科音樂 初二「四、ぐんかん」

(三) 初一・二六月の健康教育實踐細案

「六月の養護指導」養護實踐には、寒暖の季節的影響に左右される事が多く、又それにつれて時期に適した指導をすることが大切である。その點から、考へると、本月は初夏の候になり、梅雨期に相當してゐるから、兒童衛生上慎重な態度をとることが大切である。

第九週 (ムシ歯豫防)

〔養護要項〕

- 一、齒磨教練を行ひ齒の磨き方、含嗽の仕方を指導する。
- 二、物を食べるとき細かく、かむことの訓練をする。
- 三、齒の重要性と、虫齒の豫防法についての指導をする。即ち「食後の含嗽」「齒磨」「食物の熱過ぎるもの、冷たすぎるもの」等について講話する。

〔教科關聯〕

國民科修身 初一「六、タベモノ」 理數科理科 初二「五、むし齒」

第十週・第十一週 (入梅)

〔養護要項〕

- 一、梅雨中に於ける衛生の心得を話する。
  - (一) 食事についての指導 ○食ひすぎ、おやつを少くすること。○生水をのまないこと。○くさりかけたものをたべぬこと。○辨當等にも、よく注意する。
  - (二) 運動上の注意 ○雨天の際にも室内運動を怠らないこと。○汗をかいたらよくふくこと
  - (三) 教室内の注意 ○窓のあけしめ。○光線について。○雨の日の掃除作業。
  - (四) 家庭への注意 ○頭髮の注意。○入浴の奨励。○夜ふかし、寝冷をせぬ。
- 二、衛生検査、頭髮、耳・手・首筋・爪・衣服等について

〔教科關聯〕

國民科修身 初一「六、タベモノ」 國民科國語 初二「十五、つゆ」

第十二週 (夏至)

〔養護要項〕

- 一、夏至について語ることに、即ち、日の出る時刻、日の没する時刻などに注意させる。
- 二、規律的生活をなすやうに注意する。



〔教科關聯〕 理數科算數 初一「一日ノ生活」

(四) 初一・二七月の健康教育實踐細案

〔七月の養護指標〕七月に入ると、暑氣がますます募つて生活に學習に實に苦痛の一月である。併し、この苦痛に耐え得るやうな頑健な體軀を作りあげることがは人生生活上必要なことであり、長期戦の時局下にも輕視出來ないことである。本月はこの酷暑に耐える身體を作することに主眼をおいて養護經營を進めるべきである。

第十三週 (授業時間短縮)

〔養護要項〕

- 一、授業時間短縮の意義について具體的に話しきかせる。
- 二、夏における衛生についての注意。

〔教科關聯〕

國民科修身 初一「七、ナツヤスミ」

第十四週 (暑さと夜)

〔養護要項〕

- 一、暑さのために、夕涼みをするから、就寝前に身體や手足をよくふくこと。
- 二、晝の遊びが烈しいために熟睡するから、裸になり易い。腹巻をすること。

〔教科關聯〕 國民科國語 初一「ユフダチ」

第十五週 (水泳)

〔養護要項〕

- 一、少しでも身體の具合の悪い時には泳ぎに行かないやうにすること。
- 二、お腹のすいてゐる時には泳がないこと。浅い所で泳ぐこと。
- 三、水に入る前には必ず簡単な準備運動をすること。年上の人と一緒にいくこと。
- 四、餘り長く泳がないこと。寒氣がしたら、すぐ上へあがること。
- 五、着物を着る前に必ず乾いた手拭でよく身體を拭くこと。
- 六、きめられた時間以外には水に入らないこと。

〔教科關聯〕

國民科修身 初一「七、ナツヤスミ」 理數科算數 初二「七月の雜題」

理數科理科 初二「十二、水遊び」



第十六週（夏休中の注意）

【養護要項】

- 一、ラヂオ體操の會には必ず出席しなさい。あぶない遊びはさせなさい。
- 二、早くねて、早く起きるやうに、起きたら齒をみがき深呼吸を忘れないやうに。
- 三、ねる時は餘り長くならぬやうに、ねる前に齒をみがきなさい。
- 四、生水をのまないやうに、よく嚼むくせをつけなさい。
- 五、衣服のよく洗つたものを、きちんときなさい。

【教科關聯】 國民科修身 初一「七、ナツヤスミ」

（五） 初一・二 八月の健康教育實踐細案

【八月の養護指標】 養護經營は夏季休暇の八月中も一日もゆるかせに出来ない。否八月の休暇中こそ平素より以上に一層深い關心を以て臨まないと、學級生活に於て折角築きあげた兒童の身體を一ヶ月の休業によつてすっかりこぼしてしまふ危險が伴ふからである。だから、休暇中、兒童召集日には養護方面の指導をして、不斷の努力によつて、健康な兒童の身體狀況を維持させ發展させる。

（ラヂオ體操の會）

【養護要項】

- 一、休暇中でも、早く起きて、毎日かゝらずに、ラヂオ體操の會に出席すること。
- 二、きばつて、ラヂオ體操をすること、そうすると身體も強くなる。
- 三、夏季休暇中は、身體の健康を、充分考へること。

【教科關聯】 體鍊科

（孟蘭盆）

【養護要項】

- 一、孟蘭盆についての講話をする。
- 二、飲食物について、よく注意すること。特に胃腸の弱つてゐる時であるから。

【教科關聯】 國民科國語 初一「オハカサウヂ」

（六） 初一・二 九月の健康教育實踐細案

【九月の養護指標】 本月は、長い夏季休暇の後を承けて残暑の中に學校生活を初めるのであるから兒童の苦痛は相當に大きいものがあるであらう。しかし日を追ふに随つて一日一日と薄紙をはぐ



様に暑氣も退散して彼岸の涼しさが到来すれば占めたもので、學習に運動に實に眞剣になり得る時期である。それと共に、秋季運動會の準備期としても本月は見逃せない地位を占める月であることを忘れてはならない。

第一週・第二週 (休暇中の整理と兒童生活)

【養護要項】

- 一、九月に入つたら、一通り兒童の身體検査を行ふがよい。教師の手によつて分らぬ所は校醫に質問する。そして、兒童の發育狀態を考察する。
- 二、生活方面の調査 する。主として休暇日誌、宿題等を調べるのである。
- 三、座席の變更、虚弱兒童の取扱ひ等に注意する。

【教科關聯】

國民科修身 初一「八、キマリヨク」國民科國語 初一「川アソビ」

第三週 (運動會の準備)

【養護要項】

- 一、運動會出場種目の協議、決定をする。
- 二、出場種目によつて、緻密な計畫を立てて、鍊成をする。

【教科關聯】

國民科修身 初一「八、キマリヨク」

第四週 (傳染病豫防)

【養護要項】

- 一、涼しくなると、傳染病が流行してくる。傳染病の恐ろしいことについて。
- 二、傳染病の豫防法についての指導。  
(清潔調査、服裝検査等を行ふこと)

【教科關聯】

國民科修身 初一「九、ツヨイコ」

(七) 初一・二 十月の健康教育實踐細案

【十月の養護指標】 運動の好期であるから、運動會を中心にして特に鍛鍊といふことに心掛けて行くと共に、消極的な一面からは傳染病豫防といふこともゆるかせに出来ない問題である。

第五週・第六週 (運動會の練習・運動會)

【養護要項】

- 一、運動會は、學藝練習會と共に、學校の年中行事の一たる大事業である。
- 二、運動會當日の華々しい演技に到るまでの努力に中心をおくこと。



- 三、毎日、短時間宛、絶えず、くりかへして練習することが、初一・二には必要。
- 四、運動會が終つたら、當日の反省を各自に行はせること。

【教科關聯】 國民科修身 初一「十、ウンドウクワイ」

第七週（遠足）

【養護要項】

- 一、運動會も終つた秋晴の一日を遠足して、自然にふれさせること。
- 二、秩序・規律等の團體的訓練を行ひ、だらけさせないやうにすること。

【教科關聯】 國民科修身 初二「十二、エンソク」

第八週（強歩運動）

【養護要項】

- 一、少し位長くてもよい、無理をしてもやり通すといふ精神を養ふ。
- 二、一度、教師が自ら歩いて實測をしたり、附近をしらべたり計畫を立てておくこと。
- 三、要注意兒童の對策を考へておくこと。

【教科關聯】 國民科修身 初二「十二、エンソク」

### （八） 初一・二 十一月の健康教育實踐細案

【十一月の養護指標】 十一月といへば東北地方等には幾分か雪を見るであらう。霰、霜、霰などが雪の間に毎日の様に見られる頃である。關西方面でも、そろ／＼霜が降りるであらうから、その間に寒氣といふことについて一考させておかなければならない。すつかり寒くなるとそれだけの準備が出来るが、この頃は小春日をうけて頗る暖かい日もあつたりして、準備不十分の氣持である頃だからうつかりしてゐると風邪にやられることになる。風邪は萬病のもとで、それからそれと餘病を併發しやすい。能ふる限りの注意を拂ふことを忘れてはならぬ。

第九週（體育デー・服裝）

【養護要項】

- 一、毎年明治節を中心として行はれる全國體育デーについて講話をなし、終つて學級でも、體育デーを中心として運動をさせる。
- 二、兒童の身體と、寒暖についての不斷の服裝調節を指導する。

【教科關聯】 國民科修身 初二「十三、メイヂセツ」

第十週（秋祭と飲食物）



【養護要項】

- 一、國民精神作興詔書御下賜記念日にあたつて、その訓話をなし、具體化をはかる。
- 二、秋祭り等の際に、露天の飲食物に特別なる注意をさせること。

【教科關聯】

第十一週（遠 足）

【養護要項】

- 一、公園等ならば人の邪魔にならぬやう、動植物についても充分注意すること。
- 二、山野ならば、危険なる所に立寄らぬやうに注意させること。
- 三、自然をよく觀察させるやうに指導すること。

【教科關聯】

「體鍊科」「理數科理科」

第十二週（風邪と霜燒）

【養護要項】

- 一、昔から俗に兒童は風の子と言ふ程に、兒童は寒氣寒風には案外平氣なものである。しかし寒氣にさらされてゐるときはよいが、屋内等に入ると咳が出たり、手先がむづ痒くなるものである。

- 二、霜燒に對する、簡単な手當法を指導する。（家庭との連絡）

【教科關聯】

理數科理科、體鍊科

（九） 初一・二 十二月の健康教育實踐細案

〔十二月の養護指標〕 本月は前月にも増して寒氣が甚しくなり中旬以後には各地に初雪を見る程にまでになるから、前月よりも一層寒氣に對する養護を怠らぬやうにする。

第十三週（風邪と霜燒）

（第十二週の要項参照）

第十四週・第十五週（教室の暖房装置）

【養護要項】

- 一、寒暖計の見方、教室の溫度についての指導をすること。
- 二、暖房装置について、及びその注意を具體的に話すこと。  
○用具の近くへ行かぬこと。○火の用心について。
- 三、辨當保溫についての注意。

【教科關聯】

理數科理科



第十六週（冬期休暇生活）

【養護要項】

- 一、冬期休暇中の養護について具体的に指導をすること。
  - (一) 風邪をひかぬやうに。
  - (二) 炬燵や火鉢のそばにばかりゐないこと。
  - (三) お雑煮、その他のものを喰べすぎて胃腸をこはさないやうに。
- 二、冬期休暇中の生活についての指導をする。

【教科關聯】

國民科修身 初一「十五、シンネン」 藝能科音楽  
初一「十五、オシヤウグワツ」

(十) 初一・二月の健康教育實踐細案

〔二月の養護指標〕正月は、學校の休暇中であるため、自然に、その生活がだらしなくなり、飲食物の量を過したり、遊びに夢中になつたりして身體をこはしたりすることが多いから、事前に十分の注意をすることが肝要である。

第一週（お正月の行事と養護）

【養護要項】

- 一、お正月の行事について語りあふこと。（兒童に發表をなさしめる）
- 二、お正月の遊びについて語りあふこと。（室内室外とによつて）
- 三、お正月の食物について。（不消化が多いから、たべすぎぬやうに）の注意。

【教科關聯】

國民科修身 初一「十五、シンネン」  
藝能科音楽 初一「十五、オシヤウグワツ」

第二週・第三週（雪合戦・雪達磨）

【養護要項】

- 一、耐寒鍛錬をかねて雪合戦を行ふ。充分の計畫を樹立しておくこと。
- 二、雪達磨等も作つて、遊ばせるのがよい。運動量、時間等について考へること。

【教科關聯】

理數科理科  
第四週（感冒・冷傷・防寒）

（第十三週参照）

(十一) 初一・二月の健康教育實踐細案

【二月の養護指標】二月は一月と共に、一ケ年中で最も寒氣の酷しい月であるから、耐寒鍛錬に中



心をおきたい。耐寒鍛錬といつても無論初一・二の児童のことであり、消極的な養護といふことも考へての上で行ふのであるから、高學年や成人に行ふやうな無理を要求すべきではない。

第五週 (耐寒鍛錬)

【養護要項】

- 一、耐寒鍛錬をすることは、時局下皇國民の鍊成方法として忘れてはならぬ。
- 二、次のやうな事項について實踐させる。
  - (一) 通學往復途上又は休み時間に襟巻を使用しないこと。
  - (二) 休み時間、晴天の日は必ず屋外で遊び、手袋を用ひないこと。
  - (三) 學校へ近い人は、天氣のよい日にマントを用ひないこと。

【教科關聯】 國民科修身 初一「九、ツヨイコ」

第六週 (乾燥期に際して)

【養護要項】

- 一、大氣が一年中で一番乾燥して咽喉を害ひ、風邪にかゝりやすい時である。
- 二、火鉢ヤストーブの上には、湯を沸騰させて、空氣の乾燥を防ぐ。

三、室内で遊ぶ時は、ガラス窓をあけて清潔な空氣の下で遊ぶこと。

【教科關聯】 國民科修身 初一「九、ツヨイコ」

第七週 (寒さと姿勢)

【養護要項】

- 一、寒くなると、児童は首を縮め、手足を引込めて、悪い姿勢になる。
- 二、正しい姿勢を、いつでもとつてゐるやうに、不斷に注意させる。

【教科關聯】 國民科修身 初一「二十、セウコクミン」 初二「二十、ヨイ子ドモ」

第八週 (身體検査)

【養護要項】

- 一、寒氣の際ではあるが、秋の伸長期に比して、冬は充實期であるから行ふ。
- 二、春、秋、冬の身體検査を比較させ、各自に反省させる。
- 三、異状のある児童に注意する。

【教科關聯】 國民科修身 初一「二十、セウコクミン」 初二「二十、ヨイ子ドモ」

(十二) 初一・二 三月の健康教育實踐細案



【三月の養護指標】三月は、季節から言ふと春季めぐむ初春の候であり、學級生活の最後の一ヶ月である。この一ヶ月を各自に反省させ、本學年へ進む準備をなさしめる。

第九週・第十週（陸軍記念日）

【養護要項】

- 一、陸軍記念日について、具體的に話をなし、兒童にも發表させる。
- 二、皇軍の兵隊さんたちの強いことについて具體的に話をしてやる。
- 三、強い兵隊になるには身體を、頑健にせねばならぬこと。

【教科關聯】

藝能科圖畫工作

「勇ましい兵隊さん」

第十一週・第十二週（一ヶ月の反省）

【養護要項】

- 一、自分の、この一ヶ月の身體の状態を反省させる。
- 二、本年は、どうせねばならぬか、どんな點に力を注がねばならぬかを、考へさせる。

【教科關聯】

國民科修身

初一「三十、セウココミン」

初二「二十、ヨイ子ドモ」

## 第六章 初一・二校外指導細案

### 第一節 校外指導論

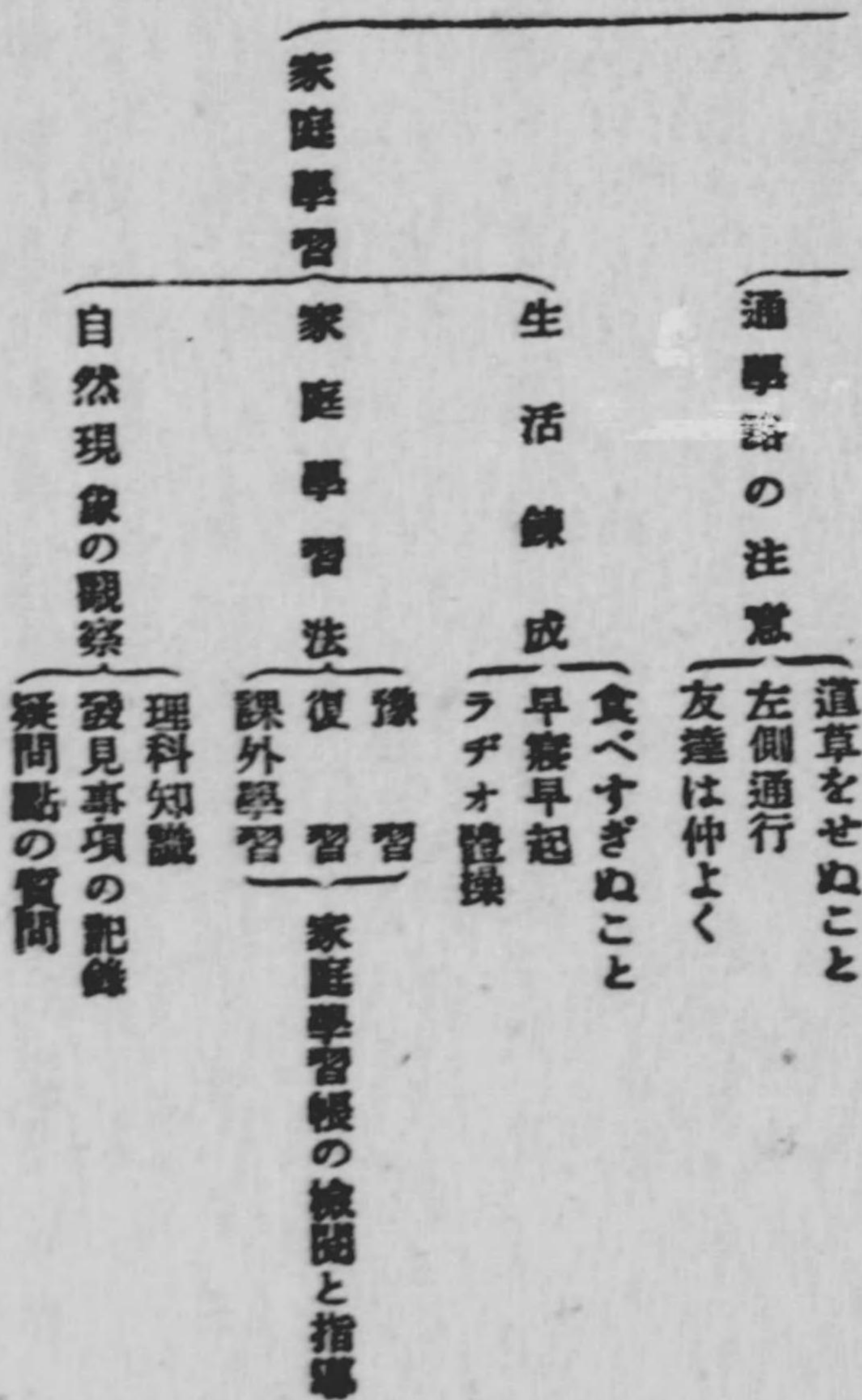
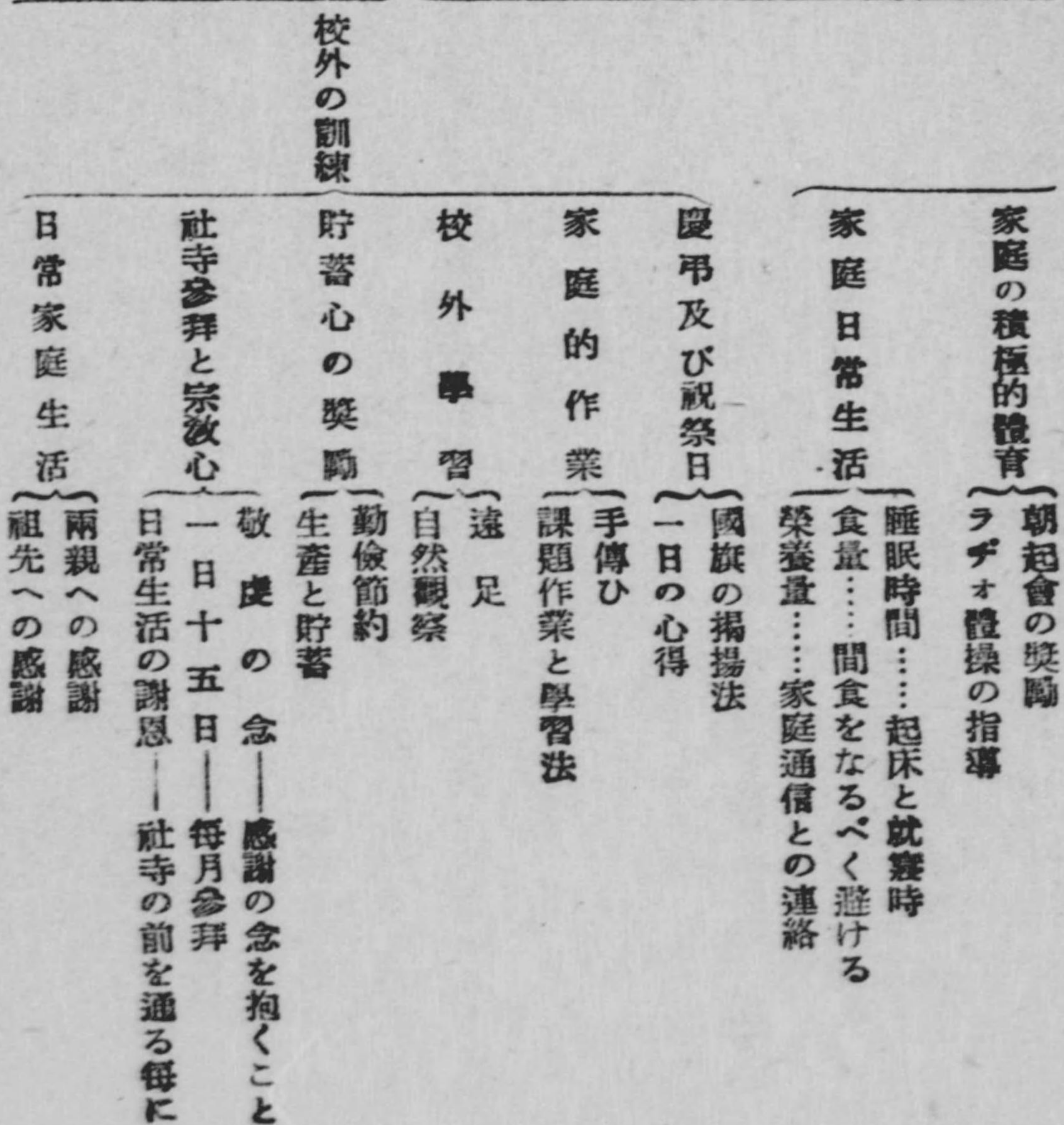
今までの教育は、學校内のみの教育であつた。教室内のみの教育であつた。即ち校外での兒童の教育を考慮せなかつたのである。教師は、校外での兒童生活は自分たちの責任ではないと考へてゐたのである。かゝる考へでは到底、よき皇民を錬成することの出来ないことは勿論である。しからば、初一・二に於ける校外指導を如何にすべきであるか。

### 第二節 校外指導の概説

避難演習	火災……消化法と消化器取扱、避難法 水害……警報と避難の常識 風害……風の方向と避難の知識 震災……震災記念講話と其の避難箇所 空襲……避難、防毒、警報、警報、監視訓練
家庭遊戯法と選擇	遊戯種類・目的方法
校外の體育	競技



校外指導  
社會的知識擴充  
家庭的生活鍊成



第三節 校外指導實踐細案

(一) 校外學習

今までの學習は、教室にこびりつきすぎてゐた。せまくて、窮屈で、不自由な教室に。教師も餘り教材にとらはれすぎてゐた。ひからびた、無趣味な、無感激な教室に——一つ所にすぎり、一つ



ものにかじりついてゐることは、固定から枯死への道を辿ることだ。動かぬ泥水はくさり、動かぬ丸たはくちるであらう。教師は、もつと眸を常に窓の外にまで運ぶべきだ。其處にひろげられた自然——其處にあふれた文化——すべてが生々流轉の相を承して、無限の彼方へと大きな波を打ちつけてゐるではないか。

教室ばかりが児童を育てる場所ではない。教室のみが児童を伸ばす糧でもない。教室は野にも山にもある。教材も又野にも山にもある。教室以外の教室それが如何に健康の色をもつてぬりつぶされ、生新の香をもつてぶん／＼みたされてゐることであるか。

大空の大なる教室の廣さ——大地の上なる教材の多さ。

児童達は、文字以上、言葉以上の學習プロセスを辿つて、たしかなるものをたしかなる心につかんでゆく。光の中なる教室故に——光にゆり動く生きた教材故に——。

教室以外に教室を見出すことだ。生き物こそ生きた心を育てる。

具體——直観——事實——行——それを一直線上に惶々とおきならべることである。

## (二) 校外の指導

機械化された教育の悲哀——

### 職業化された教育の破滅——

頭の教育にのみ走り、與へられた時間内に教育の効果を通信する時、常にこの二行の文字はつかてまはるのだ。

教育とは魂への讃歌である。しかも魂の讃歌は全體にわたつて歌はるべきだ。全體であるが故に教室以外の教育は、児童のすみ／＼に至るまでゆきとどかねばならぬ。そのかみ、キリストは山上に於て尊き教へをたれ、日蓮は巷に立つて、強き力を説ききかし、フランシスコは樹下に小鳥を呼び集めた。教會が立ち、寺院が立つて聖者の言葉は影をひそめたとまで言はれてゐる。

校外での教育、それは全體的である。家庭での教育、それは躰の根抵である。或ひは日曜に児童と共に、野原で遊ぶとき、魂が洗ひきよめられる。更に、教師と児童との魂が遊ばせるといふ境界をとびこへ、共に遊びほうけると言ふことによつて魂と魂とがとけあひその魂をおのづと明日の教室まで持ち運ばれるであらう。



## 第七章 初一・二學級行事經營細案

### 第一節 初一・二學級行事經營體系

國民學校の方針として、

「儀式學校行事等ヲ重シ之ヲ教科ト併セ一體トシテ教育ノ實ヲ舉グルニカムルコト」

とあつて、行事が、國民學校に於ては相當重要な地位を占めるものである。行事は、その形態に於ても場所に於ても普通の教科と異ることがなく、かへつて氣分を新鮮ならしめ、印象を強化して、性格陶冶の上に於て重要な部面をもつものである。更に行事は、知育ともなり、徳育ともなり、體育ともなつて、兒童生活の総合的な訓練のよい機會であるともいへる。元來行事そのものは全體的のもので各教科に分ち得られない場合が多く、各教科の総合として観ることが出来る。

又、行事の發達してきた所を見ても、

- (一) 我國民性に立脚するものであり
- (二) 我が國開闢以來の歴史に因由するものであり、
- (三) 郷土に即して發達したものであり、(四) 更に郷土文化と關係深きものであり、

(五) 我が古來よりの風俗作業に基くもの。  
等であつて、しかも之等が具體的且渾然として、發達し現在に至つたものであるが故に、この行事を實踐することによつてよき皇民としての性格を陶冶することが最も自然で多大の効界をあげるものである。

かくの如く行事は、自らなる独自の價値をもつてゐるから、これによつて兒童生活のよりよき向上を企圖し、訓育的效果を期することが出来るのであるが、無統制な行事の實踐は、兒童の氣分を焦燥に導き、全體としての統制を混亂せしめる。

かく一方に於て行事の教育的價値を認めながら、他方に於てその無統制からくる弊害を警戒するには、どうしても行事施設を組織化し、豫め一定の計畫を立てると共に、各行事の實踐組織を十分に考慮せねばならぬ。そのためには、教科學習との關係を考へて行ふことが大切である。そして行事を行ふ際には、その趣旨目的を自覺させ、反省させねばならぬ。

### 第二節 初一・二學級行事經營細案

#### (一) 初一・二 四月學級行事經營



一、親土祭（學校の農場に植えるものを捧げ、靜かに推移する春の芽ぐみを讚美し、その育成を祈るのである。即ち、かくの如き行事を通して、土に親しみ、働くことの喜びを養ひたい。）

(一) 實踐要項

- 1、親土祭の意義、感謝の心、働くことについて。
- 2、親土祭に参拜するときの心得を知らせる。
- 3、親土祭の感想發表（感謝の心。作業について。）

(二) 關聯教材

- 1、理數科理科、初一「一、學校の庭」 2、國民科修身初二「一、二年生」
- 二、メートル法記念日（四月十一日）（メートル法使用に徹底せしめる。）

(一) 實踐要項

- 1、メートル法についての説明（判り易く） 2、メートル法による算數練習
- 3、メートル法記念日のポスター描畫

(二) 關聯教材

- 1、初一・二理科算數 2、初一・二藝能科圖畫

三、結核豫防週間（結核の豫防について説話をする）

(一) 實踐要項

- 1、結核の恐るべきこと、その豫防について、
- 2、家庭にて、自分の寢具の日光消毒、空氣の流通をよくすること。

(二) 關聯教材

- 1、體鍊科 2、初一國民科國語「學校の庭」描畫

四、四月の作業

(一) 實踐要項

- 1、運動場の美化作業

(1) 塵介類の處理

- つみごへになるもの（葉屑、草等）……野積堆肥場
- 竹、木、紙等は焼く……焼却場
- 鐵屑ぶりき屑類は……國防資源愛護箱へ
- 石、ガラスの破片、瀬戸物の破片等は……危險物入箱へ



(2) 除草作業

(3) 學年園作業

(二) 關聯教材

- 1、初一國民科修身「一・ガクカウ」
- 2、初一理數科理科「一、學校の庭」
- 3、初一・藝能科音樂「ガクカウ」

(二) 初一・二 五月の學級行事經營

一、端午の節句(五月五日)(端午の節句は我が國古來の醉風美俗とも稱すべきである。この國民的な傳統行事を通して尙武の精神を涵養する。)

(一) 實踐要項

- 1、國旗の掲揚
- 2、端午の節句についての話
- 3、工作と關聯して「カブト」「コヒノボリ」を製作
- 4、武者人形を教室に一同でかざりたてる
- 5、「運動會」「兵隊ゴッコ」「遠足」等をさせるのもよい。

(二) 關聯教材

- 1、初二國民科修身「五月ノセツク」
- 2、初一・理數科算數「須序數」「兵隊ゴッコ」「運動會」
- 4、初一・藝能科圖畫工作「カブト」「コヒノボリ」
- 4、初一・藝能科音樂「エンソク」

二、海軍記念日(五月二十七日)(我が海軍の威容と、參戰勇士に對して感謝せしめると共に、國難に對する意氣と東洋の盟主としての國民的自覺を促す)

(一) 實踐要項

- 1、海軍記念日についての講話を行ふ
- 2、藝能科圖畫工作において軍艦を作らせる。
- 3、忠魂碑へ參拜させる。

(二) 關聯教材

- 1、初一國民科國語「ラツバノエヲカキマシタ」
- 2、初二國民科國語「九、軍かん」
- 3、初二藝能科音樂「四、ぐんかん」
- 4、初一・藝能科圖畫工作「グンカン」「スイヘイサン」
- 5、初二・藝能科圖畫工作「海の戦争」「軍艦」

三、動物愛護週間(五月二十八日)(動物愛護の精神の普及をはかり、情操の陶冶をなし、動物の幸福を増進し、動物を理解せしめて國家の福祉を圖る。)

(一) 實踐要項

- 1、動物を可愛がったことがありますか。
- 2、動物についての色々の講話、
- 3、飼育動物の作業をさせるのもよい。



(二) 關聯教材

- 1、初二理科算數「鷲鳥、カタツムリ」 2、初一理科理科「九、池と小川の動物」

四、五月の作業

(校庭の美化作業用具の使用法を中心としての指導)

(三) 初一・二 二月の學級行事經營

一、ムシ齒豫防デー(六月四日)(齒を磨くことは大人には行はれ易いことであるが、兒童には中々實行されたいものである。この日を機會として、口腔衛生觀念を養ふと共に、その訓練を實施して之を習慣として、體位健康の増進に資する)

(一) 實踐要項

- 1、齒の大切なことについての講話 2、ムシバの原因について。
- 3、齒磨訓練を行ふ。

(1) 細かく、かむことの訓練

(2) 齒ブラシ訓練

(二) 關聯教材

- 1、初二國民科國語「十一、むしば」 2、初二理科理科「六、むし齒」

3、初一・二體鍊科

二、時の記念日(六月十日)(時計についての知識を與へると共に、時間觀念の養成をはかり、これを機會に、時間尊重の規律的訓練をする。)

(一) 實踐要項

- 1、時に關する講話 2、時計について 3、時間勵行についての指導

(二) 關聯教材

- 1、初一理科算數「時刻(時)時計ノ見方」

三、六月の作業

(一) 實踐要項

- 1、麥畑の手入 2、螢つかみ 3、苗圃の手入

(二) 關聯教材

- 1、初一理科理科「十一、草花の苗」「十二、麥畑と虫とり」
- 2、初一藝能科音楽「六、ホタルコイ」

(四) 初一・二 七月の學級行事經營



一、七夕祭(七月七日)(日本固有の行事を體得させ、自然の神妙偉大性に接せしめ、優雅な日本精神、民族的な意識を涵養する。)

(一) 實踐要項

- 1、七夕祭の短冊を作る
- 2、七夕祭を行ふ(御供物等をそなへてかざる)
- 3、「七夕」の音楽等をうたつたり、遊戯を行つたりする。

(二) 關聯教材

- 1、初一國民科國語「タナバタ」
- 2、初一理數科算數「七夕祭」
- 3、初二藝能科音楽「七夕サマ」

二、天神祭(七月中旬)(郷土の年中行事の一たる天神祭について話し、敬神の念を養ふ)

(一) 實踐要項

- 1、天神祭についての由來
- 2、郷土に於て天神様を祭つた神社
- 3、天神祭の日の行事について(花火大會、角力大會)
- 4、神社参拜のしかたについての注意

(二) 關聯教材

- 1、初一國民科國語「テンジンサマ」「オミヤノインダン」

2、初二・國民科國語「十七、花火」「お祭」

3、初二理數科算數「七月の雜題」

4、初二・藝能科圖畫工作「角力」

三、盂蘭盆會(七月十三日)(祖先を祭り、祖先から受けた深い恩を思ひ、之に感謝し、かつその冥福を祈る我國古來の民間行事で、その指導によつて祖先崇拜、感謝報恩の精神を涵養する)

(一) 實踐要項

- 1、盂蘭盆會についての話
- 2、お墓参りの禮法指導
- 3 家庭に於ける生活實踐の指導

(二) 關聯教材

- 1、初一國民科國語「オハカサウチ」

四、水泳(七月中旬)(水泳の効果、その方法等について指導し、海國皇民としての生活を訓練する)

(一) 實踐要項

- 1、水泳の體驗發表
- 2、日本の水泳
- 3、水泳を行ふ上についての注意
- 4、家庭との連絡

(二) 關聯教材

- 1、初一國民科修身(「七、ナツヤスミ」)
- 2、初一藝能科音楽(「七、ウミ」)



五、二宮尊徳祭(七月二十三日)(二宮金次郎の徳を仰がしめ、生活實踐の鑑鏡たらしめる)

(一) 實踐要項

- 1、二宮金次郎肖像に敬禮をさせる
- 2、二宮金次郎についての訓話
- 3、生活實踐(よく働くことについての指導。ものを粗末にせぬことについての指導)

(五) 初一・二 九月の學級行事經營

一、始業式(九月一日)(學期初にあつて、心身の充實を期し、一層修練の効果を積むべきである。その出發に當つて、心をひきしめさせる)

(一) 實踐要項

- 1、始業にあつての訓話をする
- 2、坐席變更
- 3、夏休中の作品展覽
- 4、夏休生活の反省
- 5、避難訓練
- (1) 大きい地震の時は、先づ雨戸障子を開くこと。(2) 水氣を消すこと
- (3) あわてゝ飛び出さぬこと (4) 室内ではクンスとか机の下へ入つてゐるとよい
- (5) 大きな餘震のある間は、室内に入ること (6) 避難練習の時は靜に早くすること。

(二) 關聯教材

- 1、初一・國民科修身(「八、キマリヨク」)
- 2、初二國民科修身(「九、アラシノ日」)
- 3、初一國民科國語
- 4、初一・理數科理科
- 5、初一藝能科圖畫工作(「ミスアソビ」)
- 6、初二藝能科圖畫工作(「夏休」)
- 二、乃木祭(九月十三日)(乃木大將夫妻の高潔なる人格を敬仰し、その誠忠・貞淑に感激させ、武士道的精神と日本婦道との修養に力めしめる。)

(一) 實踐要項

- 1、乃木大將省像に敬禮
- 2、乃木大將の幼時のお話
- 3、生活實踐(身體をきたへること、たべものにすききらひを言はぬ)

(二) 關聯教材

- 1、初一國民科修身(「九、ツヨイコ」)
- 三、お月見(大自然の姿を思ふまゝに讚美し、それへ親しさを持たせ、進んでそれへの信仰にまで發展させる)

(一) 實踐要項



1、祭壇を作る(周圍に青竹、注連繩をはる。壇上に、すゝき、だんご、栗、芋、柿等の季節物をお供へする。)

2、初次第 (一) 初めのことば。(二) お月様へおちぎ。(三) お月様のはなし

(四) お月様の歌。(五) 終りの言葉

3、月の自由鑑賞

(二) 關聯教材

1、初一國民科國語(「オ月サマ」) 2、初一理數科理科「十六、お月さま」

3、初一藝能科音楽(「九、オツキサマ」) 4、初一藝能科圖畫工作(「オツキミ」「オツキミノゴ

チソウ」)

四、九月の作業

(一) 實踐要項

1、運動場の美化作業

2、學年圖の手入

(二) 關聯教材

1、初一理數科算數

2、初二理數科算數

3、初二理數科理科

(六) 初一・二 十月の學級行事經營

一、運動會(平素練習した運動技術を實施し、或は體力をねり體育運動を奨励すると共に、團體行動によつて共同の精神を發揮し、身體の積極的修練と元氣、忍耐、秩序、機敏等の精神訓練をする。)

(一) 實踐要項

1、當日までに、競技の練習をしておくこと 2、當日の注意としては

○召集場では定められた體形に正しく整列すること

○整列しながら、決して、しゃべらないこと

○運動する時には、元氣よく活潑にすること ○整頓を亂さぬやうに充分に注意すること

○全力をつくして、堂々と走りまわること

(二) 關聯教材

1、初一國民科修身(十、ウンドウクワイ) 2、初一藝能科圖畫工作(ウンドウクワイ)

二、神嘗祭(十月十七日)(皇祖大神の神靈に對して感謝の意を表せしむると共に 陛下の國家安全



を祈り給ふ聖慮に對して感謝せしめ、以て忠君愛國の志操を養成すると共に、日々の食事に對し感謝の念を以てするやうに心がけさせる。

(一) 實踐要項

- 毎朝起きたら、寢具の後始末をよくすること
- 清らかに清水で口を注ぎ、顔を洗ふこと
- 衣服を整美してから、神棚、佛壇に禮拜
- 明日は、國旗を自分の手で立てること。門内から見て右の門柱
- 食事(一粒の米が、如何にして出來たかを考へながら)

(二) 關聯教材

- 1、初一・國民科修身(十一、オコメ)
- 2、初二・國民科修身(十一、ウチガミサマ)
- 3、初一・理數科理科

三、教育勅語御下賜記念日(十月三十日)(教育勅語を御下賜になつた明治大帝の聖恩に感激せしめると共に、この聖典を身に對し、聖旨實現に向つて生活させる。)

(一) 實踐要項

- 1、教育勅語についての訓話
  - 2、生活實踐(私達が、お勅語に、かなふ様にするにはどうするのがよいか。)
- 四、十月の作業

(一) 實踐要項

- 1、運動場の美化作業
- 2、學年圖の作業

(二) 關聯教材

- 1、初一理數科理科
- 2、初二理數科理科
- 3、初一藝能科音樂「十一、タネマキ」

(七) 初一・二 十一月の學級行事經營

一、明治節(十一月三日)(世界の英主明治天皇の御遺徳を敬仰し昭代を追憶し、感奮興起、愈々奉公の誠を致し、臣道を實踐せしめるやうにする。)

(一) 實踐要項

- 1、前日に訓話をすること
- 2、明治節の音樂練習
- 3、當日、家庭に於て次のやうなことを實踐する



○神佛の禮拜をすること

○明治神宮を遙拜

○国旗の掲揚

○神社参拜

(二) 關聯教材

1、初二國民科修身(十三、メイヂセツ)

2、初二理數科理科

3、初二藝能科音樂(十二、菊)

4、初一藝能科習字(キミガヨ)

二、體育デー(十一月三日)(全國體育デーにあたり、心身鍛鍊をなし、よき皇國民を鍊成する。)

(一) 實踐要項

1、體育デーについての訓話      2、生活實踐      3、遠足を行ふのもよい

(二) 關聯教材

1、初二・理數科理科

2、初二藝能科音樂(十三、かけっこ)

三、國民精神作興詔書下賜記念日(十一月十日)(大正天皇の御遺徳を仰ぎ詔書煥發當時に於ける我が國狀と今日の時局とを合せ考へ、一層自肅自戒の詔書の御聖旨を奉體せしめるやうに努力する)

(一) 實踐要項

1、敬禮      2、遙拜黙禱      3、大正天皇の御幼時についての訓話

4、生活實踐(週間の特設)

○「克己日」 勉強・遊戯・作業等すべて克己の精神をもつて押し通す。

○「遠足日」 ひもじさ、だるさに耐へ得る修練 ○「作業日」 黙々として働く。

(二) 關聯教材

1 初、一國民科修身(十三、オテツダヒ)      2、祭二國民科修身(十四、稻カリ)

3、初二理數科理科

四、新嘗初(十一月二十三日)(天皇陛下御自ら當年の新穀の初穂を諸神に捧げたまひ、又御親らきこしめされ、群臣にも給はる御祭典である。その御聖旨を理解せしめ神恩と大御心とに感謝し、五穀の有難き賜物であることを知らせて食物に對する生活態度の指導をする。)

(一) 實踐要項

1、遙拜・黙禱      2、謹話      3、生活實踐(食事の禮法を中心として)

(二) 關聯教材

1、初一國民科修身(十一、オコメ)      2 初二國民科修身(十四、稻カリ)

五、十一月の作業



(一) 實踐要項

- 1、運動場の美化作業
- 2、學年團の作業
- 3、學校でのお手傳ひ

(二) 關聯教材

- 1、初一國民科修身(十一、オコメ)
- 2、初二國民科修身(十四、稻カリ)

(八) 初一・二十二月の學級行事經營

一、防火デー(随時に)(火の人類に及ぼす影響を考察させ、感謝せしめると共に、火事に對する豫防的訓練をなし時局に處する皇國民としての態度を培ふ。)

(一) 實踐要項

- 1、寒さはどの位寒いか
- 2、寒さの豫防法
- 3、燃料にはどんなものがあるか
- 4、火の用途
- 5、火事の原因(多くはお仕末)
- 6、防空と防火の關係について
- 7、避難演習について

(二) 關聯教材

- 1、初一理數科理科
- 2、初二理數科理科
- 3、初二藝能科音樂(十四、薪拾ひ)

二、義士祭(十二月十四日)(義士の終始一貫せる君への誠心、臣節とそれを達成せしむべくあらゆる忍苦をなしたることとプロセスとに目標をおく。まことに彼等の高潔なる人格を追懷して滅私奉公の精神を涵養することは必要缺くべからざるものである。)

(一) 實踐要項

- 1、四十七士の肖像に敬禮
- 2、訓話(具體的に)
- 3、發表會
- 4、生活實踐

三、皇太子殿下御誕生日(十二月二十三日)(皇太子殿下御誕生日にあたり、このよき日を壽ぎ、竹の園生の彌生を祈り奉る。)

(一) 實踐要項

- 1、遙拜、默禱
- 2、謹話
- 3、記念發表會
- 皇太子殿下御誕生の歌
- 皇太子殿下の御話
- 劇
- 萬歳三唱

(二) 關聯教材

1、初二國民科修身(十五、タンジャウビ)

四、終業式(すぎにし、二學期の反省をなし、冬期作業中に於ける心得を指導すると共に、お正月を迎へることについての指導。)



(一) 實踐要項

- 1、訓話
- 2、冬休中の注意
- 3、お正月について

(二) 關聯教材

- 1、初一國民科修身〔十五、シンネン〕
  - 2、初一藝能科音樂〔十五、オシヤウグワツ〕
- 五、十二月の作業

- 1、學年圖の作業
- 2、飼育動物の防寒設備

(九) 初一・二月の學級行事經營

- 一、始業式(一月八日)(新しき年を迎へ、且つ本年度の最後の學期を迎へて奮闘努力もつて、有終の美を納めるやうに指導する。)

(一) 實踐要項

- 1、學級訓話
- 2、坐席變更
- 3、級長選舉
- 4、作業當番
- 5、冬期休暇中の反省

(二) 關聯教材

- 1、初一國民科修身〔十六、ワタクシノウチ〕〔十七、オキヤクサマ〕
- 2、初一理數科理科

二、一月の作業

(一) 實踐要項

- 1、運動場の美化作業
- 2、學年圖の作業

(二) 關聯教材

- 1、初一理數科理科
- 2、初二藝能科圖畫工作(小鳥)

(十) 初一・二月の學級行事經營

- 一、節分(二月三日)(惡疫惡魔を追つて心身共に健康となり、よき春を迎へるといふ昔乍らの追儼豆まきの行事を家庭的氣分を以て行ひ、心身清淨の氣分でお互に生活して行く精神的態度を養ふ)

(一) 實踐要項

- 1、講話
- 2、童話
- 3、豆まき

(二) 關聯教材

- 1、初一藝能科圖畫工作(マメマキ)

- 二、紀元節(二月十一日)(我が盛國の御精神を明にし、國體の尊嚴を仰がしめ、以て皇國民たるの道に邁進するの覺悟を明確にする)



(一) 實踐要項

- 1、訓話
- 2、生活實踐

○各家庭で、神棚禮拜、國旗掲揚を行ふ。 ○儀式訓練をすること。

(二) 關聯教材

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1、初一國民科修身(十八、パンザイ) | 2、初二國民科修身(十八、キゲン節) |
| 3、初一藝能科音樂(十八、二重橋)  | 4、初一藝能科圖畫工作(紀元節)   |

三、二月の作業

(一) 實踐要項

- 1、學年國の作業
- 2、運動場の美化作業

(二) 關聯教材

- 1、初二理數科理科

(十一) 初一・二 三月の學級行事經營

一、滿洲國建國記念日(三月一日)(滿洲國建國記念日に當り、滿洲國建國の由來を知らしめ、その現勢を理會せしめ以て東亞の認識を深める。)

(一) 實踐要項

- |              |                       |                  |
|--------------|-----------------------|------------------|
| 1、滿洲國の位置     | 2、日本との關係              | 3、滿洲國建國の由來(具體的に) |
| 4、滿洲國の國旗について | 5、滿洲國と仲よくせねばならぬことについて |                  |

(二) 關聯教材

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1、初一國民科修身(二十、セウコクミン) | 2、初二國民科修身(二十、ヨイ子ドモ) |
| 3、初一藝能科圖畫工作(ヘイタイサン)  |                     |

二、雜祭(三月三日)(日本古來よりの行事、わけても女子を中心とする雜祭は誠に日本女性の奥ゆかしさと家族制度の特質とを具體化したもので、誠に民族精神の發露とも稱すべく、之を祭ることによつて、一層日本女性としての情操を培ふ。)

(一) 實踐要項

- |                          |         |             |
|--------------------------|---------|-------------|
| 1、雜祭の作業                  | 2、雜祭に敬禮 | 3、雜祭の由來について |
| 4、發表會 童話、唱歌、踊り等各自に發表せしめる |         |             |

(二) 關聯教材

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1、初二藝能科音樂(十九ひなまつり) | 2、初一藝能科圖畫工作(オヒナサマ) |
|--------------------|--------------------|



3、初二藝能科圖畫工作（「お節句」）

三、地久節（三月六日）（地久節に當り、皇后陛下の御徳を仰ぎ、萬壽を祝福し奉ると共に、團體の精華を明確にする。）

(一) 實踐要項

- 1、敬禮
- 2、遙拜、默禱
- 3、君ヶ代
- 4、謹話
- 5、兒童の發表

四、陸軍記念日（三月十日）（すぐる日露の戰に於て、我が陸軍が奉天會戰に於て敵の死命を刺して大勝利を博した記念の日にあつて、その奮戦振りを追憶し、忠勇愛國の精神を鼓舞する。）

(一) 實踐要項

- 1、陸軍記念日の訓話
- 2、忠魂碑參拜
- 3、學藝會

(二) 關聯教材

- 1、初一藝能科圖畫工作（「ヘイタイサン」「ヒカウキ」）
- 2、初二藝能科圖畫工作（「勇ましい兵隊さん」「學藝會」）

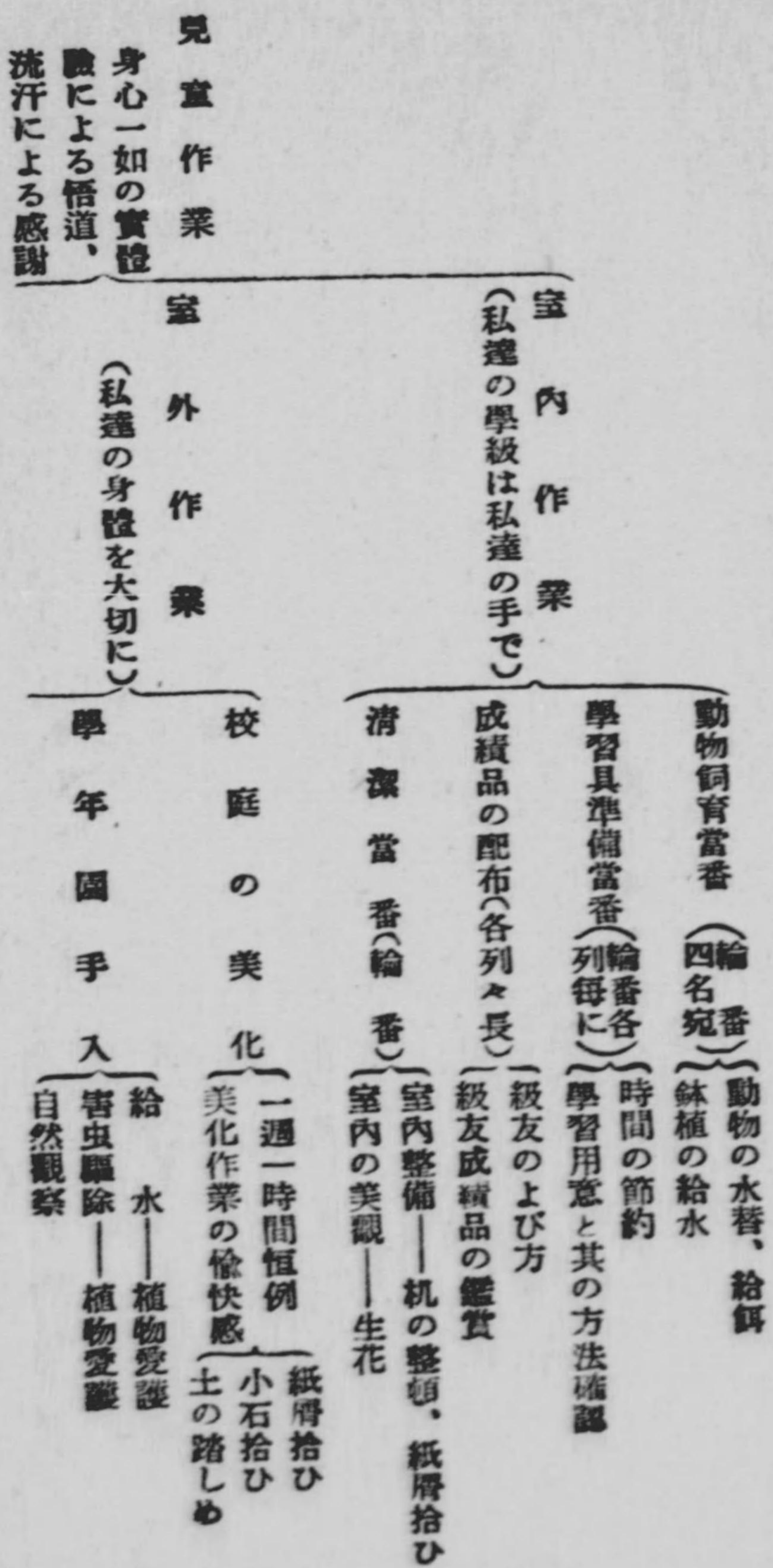
五、春季皇靈祭（三月二十一日）（彼岸を中心として行はれる國民的生活を觀照させ、國民的情操の陶冶をはかる）

(一) 實踐要項

- 1、春季皇靈祭について
- 2、當日の生活について（早朝起床、服裝を正すと、神棚佛壇禮拜、祖先のお話）

# 第八章 初一・二作業經營實踐細案

## 第一節 初一・二作業の構圖





家庭作業		校舎敷地の除草	
(出来るだけやつて見ませう)		月一回全員——學年別分擔 愛校心養成	
家庭	學用品の修繕	家庭農菜と手入	種子の配布……夏季休暇作業
庭	學	品	學級品評會……九月下旬又は十月初旬
作	習	種……二十日大根、時しらず	
業	習	夏季作業	
	家庭學習	採草品種——オホバコ、重藥、ゲンノシヨ	
	自然觀察	ウコ	
		勤儉節約の養成	
		表紙の破れをつくらふ	
		家業の手助け	

### 第二節 初一・二作業實踐細案

#### (一) 教室の美化整頓作業

何と言つても児童の生活の本域とも言ふべきものは教室である。居は氣を移す意味に於て尤も貴

いものである。児童の純情を伸ばし生活經驗の一定傾向をつくるためには教室を出来るだけ清潔にできるだけ整頓をする。しかも、それはなるべく、教師と児童との協働作業によりたい。又花を活性、繪畫をかざり以てその室に入るものをして自然に容儀を正し心情をうるはしくするやうに整美しておくことが大切である。かかる不言の訓育こそ、この時代にとつて尤も大切である。

#### (二) 校庭の美化作業

従來の校庭は、あまり教育的願慮がされなかつた。崩れかけた土壤はそのまゝ放つてあつたり、枝は折られ根もとからふみにじられた樹木も、そのまゝであり、校庭の隅には塵埃が埋高く積まれそれが風に飛散つてゐるし、運動具が其處にも此處にも使用したまゝ放置されてゐる。これではいけない。初一・二の児童であつても、それ相應に校庭の美化作業を行ぜしめる。児童達は、喜んで作業をするものである。校庭に草一本もなく、常に箒の目が畫かれてゐるのは見るからに氣持がよいものである。

#### (三) 植物の栽培實踐

#### (一) 植物の栽培園の經營



植物の栽培には、どうしても一定の場所を必要とする。それが學年團である。然して、學年團が教科學習と關聯する時に於てのみ、教育の價値が向上してくるのである。

教科學習と學年團との接觸面について考察する。

### 國民科修身

國民科修身に於ては、生活指導・實踐指導を重視してゐるが、學年團に於ける勞作——行を通じての道德實踐——は肉を通しこの道德的勞作であつて、肉はこれによつて純化され、その純なる活力を靈に供給して道德力の根源を培ふものであるから、本科の教育には根本的な關係を有するものである。又學校を勞作社會に構成する場合、學年團の經營はその最も適切な施設であつて、この勞作社會に於ては、社會連帯で、相互扶助の心・協同・寛大・認容・友愛・秩序・規律遵守等の諸徳を、具體的に實踐的に教養して、所謂社會性を訓練することも容易である。

かく考へる時、生きた修身教育は、學年團に於ける勞作を通し、愛と汗の體驗を通してはじめて實現されるものである。

### 國民科國語

こゝでは主として綴方についてのべるが、綴方は兒童生活の文による表現であるから兒童の生活

を指導し開拓するのでなかつたならば、その目的を達することは出来ない。随つて綴方は學年團に於ける教師と兒童の共働・共遊・共鳴・共感かうした生活の中から、自然と生れ出るものであり、又成長するものである。今後の綴方は、どうしてもこゝを狙はなければならぬ。即ち「土」を正しく認識して、そこから生え立ち、兒童に足づけた指導である。

### 理數科算數

理數科算數に於ける生活・作問・實驗實測等は學年團の活用と密接な關係にある。

算數教育は、兒童の數量的生活の指導に重心があるのであり、彼等の生活中に科學的萌芽を成長せしめて行き、科學的に物を見て行く態度を作らねばならない。

學年團に於ける彼等の生活を數量的に指導して行くならば、科學的な考察力も數量的觀念も容易に養ひ得られる筈である。

### 理數科理科

國民學校に於ける理科は、科學の初歩として授けるのではなく、科學への道を辿らしめるのである。随つて方法としては、より體驗的な、より具體的な、より作業的な學習指導が必要である。

私は自然研究のモットーとして「大自然の大教室の中で、自然的な構案で自然的な學習をさせる」



ことをあげたい。理科と學年園とは關聯が深い。學年園は自然物の微妙な、美しい神秘的姿を兒童の前に展開させ、自然への親近愛好の精神や、自然讚美の態度を培ふ。

### 藝能科圖畫

藝能科圖畫は、純正な美的情操の教養を以てその主要な任務とする。學年園は兒童の觀照生活を指導することが大である。かゝる點からするならば、學年園は、藝能科圖畫の向上發展に資することが大である。

### 藝能科工作

藝能科工作は、兒童の生活を重んじ、兒童自身の意途ある作業たることを要するが、學年園に於ける兒童の生活は、次から次へといろ／＼な教育的工作を要求する。即ち、名札、花瓶敷、盆栽臺等々……と。かくすることによつて、兒童はある期待を持ち、興味と便宜を感じ、工夫省察の餘地も與へられて、益々作業が進展する。

かくの如く、工作教育が、學年園へと發展する所に、その價值を増すであらう。

### (三) 初一・二植物の栽培實踐

#### (一) 初一・二 四月の植物の栽培實踐

一、三色堇の定植（三角形の學年園に、三角形毎に三色堇の色別によつて植付を行ひ、色板並べとする。定植前に堆肥を施しおき、整地の後一〇纏の距離に一株づつ定植し極薄い下肥をやつておく）

二、二十日大根の播種（二十日大根は、初一・二の學習材料としては好適である。即ち二十日大根は、

(一) 生育早く……二十日間位に收穫することが出来る。

(二) 色は……赤色、白色、黄色とある。(三) 形は……球形、長丸、形丸形とある。

條を切つて薄い下肥をやり、二十日大根の種子をまく、その上へ細土を覆ふ。この時の指導は土を細く碎き乍ら、味よく生えますやうにと祈らせ乍ら、種子の上へ細土をかけ、其の上へ藁をやつて乾燥を防ぐ。

#### (二) 初一・二 五月の植物の栽培實踐

一、二十日大根の手入及び收穫（二十日大根に、二分の一の下肥を施す。サルハムシの驅除をする。之は、デリス石鹼の二十匁液を撒布すればよい。この收穫は、赤丸、白丸、赤白丸、黄丸、赤長



白長、黄長と分類し、尙、大小に分ちて五本づゝを束ねて理數科算數に關聯させる)

二、玉葱の施肥(玉葱に二分の一の下肥をやる。尙時々、過磷酸石灰の少量を混じて用ひ、玉葱の大きくなるやうにする)

三、おもちや南瓜の定植(植穴を作つて、堆肥、下肥、藁灰をやり、土をもつて鞍を作る。そこへ前から作つておいた苗を、今作つた鞍の眞中に植えて五分の一の下肥をやつて、藁で蓋をしておく。又は硫酸紙で覆つておくことにする。初一・二の蔬菜は、珍しい品種を用ひるのがよい。兒童の趣味にも合致するからだ。おもちや南瓜は形も、色も實に多種多様でよい學習材料となる)

四、千成瓢箪の定植(學年園に竹垣を結び、その垣根に千成瓢箪の苗を植えて、五分の一の下肥をやる)

五、ダリヤの植付(六十種毎にダリヤの植穴を掘つて、下肥堆肥、藁灰を施して、その上に土を覆ひ、ダリヤの球根の芽の出たものを植付け、少し土を高くして、それに一米位の竹を立て、支柱とし、芽の伸びるに従つて結びつけて行く。尙、芽が伸びるに従つて、薄い下肥をやり、根元へは藁灰をやる。三十種位伸びたら摘心をすること)

六、チューリップ・ヒヤシンスの満開(花が咲終つたら花梗からとり去ること。之は、そのままに

しておく時は、實を結ぶからである。實を結べば、その方に養分をとられるので、球根が太らなから落花すると、すぐ切りとることを忘れてはならない。この時に種類、色等の札を立て、おくこと。尙落花後、すぐ二分の一の下肥を施すと、球根を大きくする)

### 七、大輪朝顔作り

(一)播種期 八十八夜だから本月中がよい。早播は好結果は得られないから、之をさけること

(二)用土 川砂七分に、腐葉土が三分。肥土は絶対に用ひてはならない。

(三)播種箱 深さ三寸位で底へ排水孔をあける。魚の箱や密柑箱二つ切を用ひるのがよい。

(四)播種方法 臍を下にしないやうにしてまき、土を三分位かけること。

(五)發芽 十日位で發芽する。發芽までに種子が見えたら砂をかけて灌水をすると、種皮が工合よく離れることが出来る。

(六)灌水、發芽後も多濕にならない様に灌水し、常に乾き加減で大きく育てることが大切である

(七)苗撰び、莖は太く、子葉は横幅廣く、丸味の多いもの程大輪に咲くものである。

### (八)花色の見方

1、紫、紺色等——莖及び子葉の上にまで其の色を出す。



- 2、紅、桃、柿、藤色——莖だけ、その色を出す。
- 3、水、鼠、納戸色等——根元半分程その色を現はす。
- 4、絞り——莖に各色の斑點が現はれる。

- 5、子葉が緑色のものは、本葉も緑色、所謂青葉。
- 6、子葉が黄色葉のものは本葉も黄色所謂黄葉。

(九)第一回の移植(鉢は三・四寸鉢。用土は川砂四分、田土四分、腐葉土を二分混じたもの。方は、鉢の底へ小砂を入れて用土を入れる。根の長さ一寸位で切り根をいためない様に植える。蔓の伸長性を押へて横根の發育を助ける。灌水は、移植の際充分にやり、その後はなるべく控へ目に、夕方や曇天はやらない様にする)

(七)場所(終日、日光のよく當り通風のよい所を選ぶこと)

(三) 初一・二 六月の植物の栽培實踐

- 一、玉葱の收穫(玉葱の收穫後、敷のかぞへ方及び大小玉葱の目方、全體の目方を計る。籠に入れて運ぶ)
- 二、おもちや南瓜の手入(南瓜の根元へ藁灰を施し、時々下肥をやり發育をはかる。

中旬頃、麥稈をしく。又は竹垣を作つて之にからませる。梅雨期に入ると授粉しないから、雄花の花粉を雌花の雌蕊の生へつけ人工授粉を行ふ)

- 三、千成瓢箪の手入(蔓の伸長と共に竹垣にからみつかせ、根元へ藁灰を與へ、時々下肥の二分の一を施して生育をはかる。雌花がどん／＼開いて小さい實が下つて實にたのしいものである)

- 四、トマトの定植(三十種を株間としてトマトを定植する。定植地には、藁灰を十分施しておくこと。定植後三分の一の下肥を施し尙藁灰を根元へ與へる。トマトは花をつけてゐるが開花してゐるやうな苗を植つた方が生育がよろしい。定植したならば竹の支柱を設けて根元に敷藁を行ふ)
- 五、大豆の播種(鳩の材料として大豆を播種する。大豆は豇種植物であるから、土地を肥し一舉兩得である。尙農村營養品としても大切な作品である)

- 六、ダリヤの手入(ダリヤの伸長と共に支柱に結びつける。除草と共に時々二分の一の下肥を施して生育をはかる)

- 七、チューリップ・ヒヤシンスの球根上げ(チューリップやヒヤシンスの地上の部が枯れたら、晴天を見計つて、球根を掘りあげる。球根は新聞紙を覆つて陽で乾燥させる。乾燥した球根は大小球に分け網袋に入れて、なるべく涼しい所に吊しておく。又浅いザル等に入れて貯藏しておく。



その時球根の蒸さるゝことは第一の禁物であり、鼠の害にも注意しなければならぬ。

(四) 初一・二 七月の植物の實踐栽培

一、千成瓢箪の手入（形の悪いものを取り除く。形の色々を、寫生せしめる。二分の一位の下肥を施す。蔓の整理を行ふ）

二、百日草の手入（百日草はジニアともいふ。夏から秋にかけて咲く草花である。最近ではダリヤ咲き、矮性の高級品が、どん／＼出来て、その美は實に大したものである。特に高級品を植えるには苗床で十分苗を作り、花を一輪見てから定植すると、花の色、形が知れて、一層美を増す植方となる。決して植込みを忙がない。六月下旬でも七月上旬でもよい。之も花がしほれるまでに切りとることを忘れてはならない。そのまゝにしておく時は、次によい花を咲かすことは出来ないのである）

三、大輪朝顔作り（豫定の通り蕾もつき摘心も終ると灌水施肥に最も注意を要する。此の管理が花の大きさに關係するのである。水はいつもの當水をやるのがよい。此頃から乾燥する日は一日三回として下の穴から出る位充分に與へる。肥料は二三日毎に油粕の腐汁のうすいものを與へ、開花近くからは午前午後二回灌水の代りに與へるのである。しかし生育の工合と青葉のものと、黄

葉のものによつて加減する。青葉は肥料に強く、黄葉は弱い。雨中又は降雨前に與へるのは有害無益である。開花の時、花瓣が切れたり、縮んだり咲いたり、ひらき得なかつたり、捻られたりした場合は、肥料が多すぎたのであるから、灌水を多くして肥料氣を流出させる様、午前十時頃までに除き、必ず室外の棚に出すこと、之は翌日の花に影響するからである。朝顔は高温高熱を好むものであるから陰におくことを避けねばならぬ）

(五) 初一・二 八月の植物の栽培實踐

一、愛翫南瓜の收穫（形や色も面白く鮮な南瓜がころ／＼と學年園内にへそを上向けて晝寝をしてゐる姿は、實にこのましいものである。よく熟した果實から收穫して、尙太陽に二、三日あてゝ十分に乾燥を行ひ貯藏して第二學期からの學習資料とする）

二、千成瓢箪の收穫（色があせて暗くなつた千成瓢箪から收穫する楽しさ。果種を取り除き尙果肉の所まで錐で穴をあけ、水に浸積する時は果肉は腐つて、ほんとうの瓢箪となる。尙色を塗り面白く千成瓢箪を作成するのである）

三、ダリヤの更新（本月上旬、ダリヤを三、四十種所で剪り、堆肥下肥を施すと新芽がぐん／＼出て又秋花を美しく咲かせることが出来る）



四、大輪朝顔の手入（一番蔓の花が充分咲き終つた頃、根元から二・三寸上つた所から出る強健な芽を残して二番蔓とする。一番蔓が全部咲き終つたら、之を除き、二番蔓に咲かせるのであるが一度に切らずに二番蔓に蕾の見える頃から六七寸づゝ二三回に分けて切縮める）

(六) 初一・二 九月の植物の栽培實踐

- 一、雪白體菜（小鳥の餌にもなるので之を栽培するとよい。條播を行ふ。先づ畝で三〇糶毎に條を切り、薄い下肥をかけ、次に小さな種子を出来るだ薄くけ蒔く。土を覆ふ。發芽後施肥を行ふ）
- 二、聖護院大根（俗に言ふ大大根で、初一・二の兒童が喜ぶ一つである。之は三〇糶毎に三粒づゝ點播を行ふ。播種の場所を平に均し、薄い下肥を施し、播種後土を覆ひ、切藁をかむせておく）
- 三、朝顔の採種・貯藏（翌年栽培用の種子は鉢作りの抑制した朝顔から採ることが必要である。よい種類は交配しないと結實しない。本年使用した土は翌年又培養土として使用することが出来るから、箱に入れて貯へておくこと）

(七) 初一・二 十月の栽培實踐

- 一、間引と施肥（二十日大根は、色別にして五本づゝ束ね算數の勘定に用ひ、色々世話をしたことを學習資料とする。聖護院大根は早く一本にして、うんと下肥を施す）

- 二、害虫驅除（キイスチノミムシ、サルハシム、コガネムシ等をデリス石鹼を用ひて驅除を行ふ）
- 三、苗床の手入（本月下旬に秋播の草花を、假植して丈夫な苗を作る）

(八) 初一・二 十一月の栽培實踐

- 一、間引・中耕・施肥（雪白體菜は小鳥や兎さんの餌に用ひる。聖護院大根の間引によつて、算數の勉強に使ふと共に漬物を作る。二分の一の施肥によつて肥大をはかる。藁灰をやり一層の肥大に努める）
- 二、花卉栽培作業（ダリヤは霜にかゝると葉を痛める。下旬掘り起して温室の棚下に貯藏する。この時、名札を付けておくことを忘れないやうに。秋播草花の苗には、藁灰やうすい下肥を施して來月定植出來得る様に準備しておくこと）

(九) 初一・二 十二月の栽培實踐

- 一、雪白體菜・聖護院大根（收穫をして、品評會を行つたり、綜合的學習をする。收穫後、學年園には、堆肥を入れ、耕耘を行ひ、土を肥すことに努める）
- 二、玉葱・甘藍の定植（整地をした後、三角形、長四角に即して玉葱を植える。株間一五糶、甘藍は六〇糶の距離に定植する。玉葱は葉と根の三分の一を切りとつて眞直に植え根元をよく壓へて



植ゑる)

三、秋蒔草花苗の定植(三色堇、十五纏の距離に色分け別に植ゑこむ。二分の一の下肥を施し霜除けに切藁を施す。フロックス、之も十五纏の距離に色分けにして植ゑこみ、同じく二分の一の施肥並に切藁をおいて霜の害を除く)

(十) 初一・二 一月の栽培實踐

一、蔬菜栽培作業(寒肥として下肥をやる。玉葱・甘藍等に。藁灰を雪の上からかけて丈夫に育てること)

二、花卉栽培作業(寒肥として下肥を、三色堇、フロックス、雛菊等にやる)

(十一) 初一・二 二月の栽培實踐

一、大豆(大豆は春おそく下種して、秋に收穫する。大豆は土中の窒素を吸集せない。むしろ之を増加させるから、禾穀類等は、輪作するのに大切な作物となつてくる。だから適宜に、麥・陸稻等と前後せしめるやうにする。畑地はなるたけ丁寧に整理して、畦巾一尺五寸か二尺、株間は一尺内外として、穴を穿つてその中へ二三粒づゝ種子を點播すると、大抵一週間内外でよく發達するものである。一反歩に要する種子の量は三四升である。大豆の手入は、發芽し伸長するに従つ

て、一二回の中耕と除草を行ひ、莖葉があまり繁茂しすぎないやうに心止めを行つておく。大豆の收穫は、九月から十一月頃になると、葉は黄色になつて落下し莢實がよく熟するやうになるから、早朝若くは曇天の日を選んで、之を引抜いて畑の中へ互に立てかけるやうにするか、それとも架を設けて之をかけて乾かす。そして十分大いたならば連絡を用ひて種粒を打落して十分乾かし之を貯へる。この際乾燥が不十分であると、貯藏中に豆の内部から油分を滲み出して、酸酵を起し食用に供することが出来ない様になる。反當一石乃至一石五斗を普通とし、稀に、二石を越ゆることもある。又子實の重量は一升、三百六十匁、子實一石に對する莖や莢の收量は約四十人見當である)

(十二) 初一・二 三月の栽培實踐

一、施肥・中耕(玉葱・甘藍に下肥及び藁灰を施す。除草をかねて軽く中耕を行ふ。三色堇・フロックス・雛菊に下肥及び藁灰をやる。除草をかねてかるく中耕をしたり、暖い日に、缺けた所へ補植をすること)

動物の飼育實踐



## 初一・二と小鳥飼育

彼等をして自然の生活を爲さしめ新鮮な空気を吸ひ自然の景色にふれ、自由に動植物の生長實態を観察せしめ得る所は大自然である。そこで兒童達は全一的生活を營んでゐる。しかも不知不識の中に、各種分化生活の目的に合致してゐるのである。極めて閑靜な鳥の囀る聲、蟬がなく、チヨロくくと流れる水の音を音楽ときく靜かな生活、四季折々の草花は咲き亂れ、森の小鳥が囀るところ、蝶の訪れる態、池には鯉鮒が泳ぎまはつてゐる等の景物に恵まれてこそ兒童の純情な培ひが可能であらう。家庭生活から學校生活へ變轉して來た兒童にとつて自然的生活指導に於ける兒童の生活の環境を整備して、その中に於て彼等の自然的の活動をより正しく、より美しく、より強く純化せしめねばならない。

彼等の生活の姿態は、かくの如く遊びの生活であり、作業の生活であり、直觀の生活であり、表現の生活である。かゝる生活姿態に對して、カナリヤ飼育は、初一・二にふさはしい動物飼育である。

## (一) 初一・二とカナリヤ飼育の目的

1、作業的生活への高揚 兒童生活は遊戯生活であるとは言へ、その遊戯的生活を止揚して一歩で

も高い作業生活に導入しなければならない。苦痛を忍んでよき結果への努力といふことが作業そのものの本質としても、この學年に於てはまだ無理であらう。本質的の作業生活へ導入することが本學年の仕事である。小鳥の部屋を掃除してやる。水を與へる。ハコベを摘みに行く、餌をあたへる。かくして可愛い小鳥を通じて生活し、生活の中に小さな機會を把えてその中に育まれて行くのである。かゝる中に作業することに興味をもたせて、やがては勤勞愛好の精神の啓培にまで進める。

2、慣れる生活の訓練 幼少な子供は精神を通じて人間をつくることは困難である。身體を通じて躰をすることが先づ第一の仕事である。規律正しい生活をなさしめ、或は自治の精神を養ふことも大切である。又同情心の芽を伸すことを忘れてはならない。子供は好奇本能や殘虐本能のため蝶を見れば殺し蜻蛉を捕へて羽を切る、魚を殺して喜ぶ。しかして餘りに悲哀を感じない。他人の怪我を見て同情心が湧いて來ない。そうかと言ふと一面に於ては、玩具の人形の手が落ちたと云つて痛からうと同情する。雀が雨に濡れてゐるのを見て冷くないのかしらんと思ふ。先生、このカナリヤ寒いことないのやらうか」と同情するなど思ひもよらぬ姿もある。こゝに於いて兒童と共に生活し兒童の生活を指導して行く者、その涙の芽を發たし如何に小さくともその指導助成



に務めねばならない。即ちこゝに、作業と關聯してこの啓培に當らねばならない。

3、教室の美化 教室は生活鍊成の場所であり、慰安所であると共に、道場である。然るに、過去の學校の教室が殺風景な處では親しみもなければ落ちつきもない。人間美の感得は理窟では出来ない不知不識の間に彼等をして人間美の豐潤なるものを感得せしめなければならぬ。この點に於ても又美しく優しく囀る者をきゝながら學習する。そこに柔かな美しい感情が養はれる。「儼もあんな美しい聲が出したいなあ」「カナリヤは何を言ふてるのやらう。」「きれいな體をしてゐるね」等と語りあふ兒童達である。

4、觀る訓練 ゴマ・栗等をついばむ口の器用さを見、水浴びをなし、卵でも産むところが近づくと上巢へしきりに紙や葉を運ぶ、兒童は訪れる毎に新しきことを見、知り、そして日々親しさを増し愛情と共に見る生活を深めてゆく。

### (二) 初一・二とカナリヤ飼育の實際

小さな黄色い身體——あの可愛い、聲、軽い動作、もうまるで自分のお友達のやうにしてゐる。毎日一度は見舞つてやる。新しい水を貰ひ、兒童の手から餌を貰ふのをカナリヤも又首をかたむけて待つてゐる。ビビビビビビと楽しさうに嬉しさに止り木に來て愛くるしい目で首をかた

むけるのには何とも言へない親しさを感じる。大きな戸をあけて兒童が水を、餌を、青葉を、入れる間逃げやうともしない。有難うといひながらビビビビと囀つてゐる。「先生、カナリヤさんがお禮を言ふてるのやね」「さああげますよ、あげますよ」等と唱ひながら、せつせと餌を與へてゐる兒童の姿も又小鳥のやうにうるはしい。

毎日の當番は水をかへ、はこべを與へ餌をあたへてやるのである。なほ作業日誌等に、その日／＼のカナリヤの様子を觀察し、世話したことを記させるやうにする。時々兒童のカナリヤに對する愛護心が童話となり綴方となつて表はれる。カナリヤは兒童のお友達である。

夏季休暇中は、各學年の當番兒童に依頼する。休暇中の召集日に登校した兒童に先づ氣のつくものは、カナリヤである。「先生、カナリヤ、どうしたの」としきりに誰もがたづねる。よき友達の顔の見えないのを殊更淋しがる。

又、學習中等にも、兒童達は次のやうな疑問を發す。

- 美しい聲、旋律 ○水浴び、黄色な體 ○巢に紙を運ぶ、薬すべを運ぶ
- 巢に坐りついた時、なぜ人の目を恐れるのであらうか ○なぜ卵が産めなかつたか
- 軽い動作 ○なぜ逃げないのであらう ○葉、餌のついでみ方の器用さ



○一滴しのどをうるほしては舌打ちをしながら如何にも美味しさうに飲むカナリヤの姿態  
疑問を抱いては解決を求め、より一層親しみを増していくのである。

### (三) 初一・二と鳩飼育の實際

#### (一) 養鳩の目的

鳩は平和のシンボルとか。新入學兒童の喜びと共に「ポツポツポ、ハトポツポ」と必ずや小さい唇からもれ出ることであらう。このやうに兒童に親しみの多い鳩が、ふくよかな胸をはり、首をふクラクラして豆を拾ひ、可憐な姿を窓外にあらはしては誰しも足を止め、無限のなごやかさに導入されることであらう。まして創造力のたくましく兒童に於てをやだ。

かくの如く小動物を飼ふことによつて學習に疲れた兒童の心を和らげ、動物愛護の精神を養ふと共に、勤勞愛好の精神を助長せしめる。

#### (二) 鳩舎

鳩舎は密柑箱の蓋に丸い穴をあけ、これを釘づけにしたものを取りつけてもよいが、普通の學校ならば、よく古い木や板等があるだらうから、これを利用し、兒童と教師の共同勞作によつて工作

して、つくるのが興味があり、教育的價值もあるであらう。

#### (三) 飼育上の諸問題

1、飼育當番は二人宛位がよい。餘り多くてはいけない。

2、飼料としては、豆類、みよさ、たうもろこし等を與へ、はこべや、キャベツ、大根、かぶらの葉、白菜などもいれてやる。水は飲用と水浴用と二つ必要であるが、放し飼ひによるときは、みよさ、豆等を密柑箱利用の飼料箱に入れておく。

3、當番は、毎朝登校後鳩舎の掃除をし、水をかへ飼料を與へる。下校の際には再び飼料の有無を調べて、ない時は補給することにし、放し飼ひのは飼料の有無のみ調べるやうにしてゐる。飼料を與へるのを怠ると、各家庭や田畑に播種した大切な豆や穀物などを荒して、害を及ぼすことがあるから注意する。

4、年に二回程産卵するが、親鳩が卵を温めてゐる所をいちつたり、時々ぞいたりすると、その育成を断念してしまふことがある。

5、時々軟かな糞をしいてやつたり、古いのを取り替へたりすることも大切である。

6、當番は責任を以て仕事を果し、世話したことや感想、鳩の様子などを日記に記入させる。



(四) 金魚飼育の實踐

「ヨミカタ」卷三の十六「金魚」の二に、

「うちへかへると、おかあさんが『きれいな金魚ですね』といつて、だいを持つて来てくださいました。ぼくは、このだいの上にそつとガラスばちをのせました。おとうさんが『これは涼しいうだ』とおつしやいました。金魚は、やつとおちついたといふやうに、しばらくじつとしてゐました。やがて、もの間をおよぎぬけたり、上の方へ浮かんでいつたり、下の方へたなめに沈んだりしました。時には、花びらのやうにひろがつて大きく見えたり、また長くなつて見えたりしました。

ねえさんが、

「正男さんは、金魚とにらめつこをしてゐるのね」といつて笑ひました。

とあるが全く、金魚は兒童たちのよいお友達である。又、初二の「自然觀察」も、十一「金魚とめだか」が提出されてゐるので、ぜひ兒童の勞作によつて飼育させ、教室の一隅においておき、直観させ、愛玩させたいものである。

金魚飼育上の諸問題

(一) 金魚の種類と其の特徴

金魚が鮎から變化したことは誰でも知つてゐるであらう。金魚の種類と、その特徴をあげると、

- 1、ワキン(和金) 形が鮎によくにてをり、その色も幼時は、全く鮎と同色であるが、成長するに随つて、漸次赤色となり、又は赤白色の斑點が出來てくる。尾は綱と同様のものであるが、分れて三ツ尾、四ツ尾となる。胴は他のものよりも稍長く、各鱗は短く形が鮎と同じである。

- 2、リウキン(琉金) 體が短く且つ圓くして、口は小さく腹部が膨れて、殊更に大きく、尾鱗は長く垂れ、他の各鱗も亦長い。この種類には、ヲナガ、ナガサキ、コホリヤマ等の別名がある。

- 3、ランチュウ(蘭鱗) 體が短くて膨脹し、頭は廣濶で尾が短く、背鱗は擴張して對をなし、成長すれば頭部に苺の實の如き愛起を生ずるものもある。

- 4、シシガミラ(獅子頭) ランチュウの頭上の瘦起が葉しくして、其の面貌が突然獅子の頭のやうになり、自らこの名がある。

- 5、マルコ(丸子) 體が短くて膨脹し、背鱗及び尾鱗は長くなく、充分に擴張してゐる。



6、デメキン(出目金) 體色は赤と白との外に更に黒色を交へ、兩眼突出したるものである。體形及び鰭の形狀は殆んどワキンと相等しく、眼球の突出に二種あつて、一は眼球が側方に向ひ、一は眼球が上方に向つてゐる。

(二) 水質・換水について

清澄、透明なものよりか、植物性プランクトンを多量に有して、綠色を帯びて、少しきたない位のもものがよく、腐敗しない限り注排しないがよい。水槽のふちに生ずる水苔もとらぬがよい。そして、暖かい河水がよい。井水を使用するならば、半日位汲みおいたものがよい。

換水を、月別に示すと、

一月 換水の必要がないが、池水の餘りに汚濁した時は、溫暖な日に、正午から、二・三時ごろまでの間換水する。

二月 水溫が特に低く、水の腐敗、惡變等殆どない時であるから、換水は前月と同じでよい。尙全部を一時に換水することなく、元の水を大凡二分の一位残して、注水を二分の一位に止める。

三月 三回位、換水を行ひ、新に注水する水量を前月よりも、少し多くすること。

四月 十日目に一回位確實に換水する。

五月 前月と同じ程度、若くは更に多少換水回數を増す。

六月 梅雨中は多少控目にして、天候が恢復したら、月四回位の割合で換水する。

七月 一週間に一回位換水し、その他毎日午後四時ごろから少量の注水を行ふ。

八月 六日目毎に一回位換水し、その他注水を行ふこと前月と同様。

九月 換水、注水共に前月のやうに。

十月 十日に一回位換水し、注水は中止する。

十一月・十二月 換水は全然中止し、又行ふ場合にも月一・二回の限度とするがよい。この月から翌年の彼岸ごろまでは、防寒用覆ひを施すとよい。

(三) 蕃殖法

1、雜魚の選擇 各種類の有する特徴に照して、完全な色彩、形態を具備し、年齢三、四歳乃至五六歳で元氣澄潤たるものを選択して親魚とする。

2、親魚の取扱ひ方 親魚は、その取扱ひを懇切に爲して負傷せないやうにしなければならぬ。手で捉へることを避ける。襪網がよい。この場合に用ひるものはいはたい糸で、而も網の目のなるべく



細いものが良いのである。又メリケン粉の袋の口に細い丸竹の輪を取付けて、之に柄を施したものでよい。

3、雌雄の識別及びその配合分 金魚の雌雄の識別は次のやうによつて行ふ。

(雌)

- (一) 頭が大きく、口が尖り、體軀は雄に比して比較的大きい。(二) 魚體が軟い。
- (三) 頭部は圓滿に膨大して軟い。(四) 色彩が雄の如く鮮麗でない。
- (五) 追星を生じない。(六) 生殖時期には、魚體がスラとなり一見柔軟の感をあたへる。

(雄)

- (一) 頭が小さく、口部が丸く、體軀は比較的小さい。(二) 魚體が硬い。
  - (三) 腹部の膨大の度が少い。(四) 色彩が鮮麗である。
  - (五) 生殖時期になると追星が出来る。(六) 生殖時期になると容易に精を漏らす。
- 金魚は、一ケ年内に三回乃至四回産卵を行ふ。孵化中は、水温の激變をさける外、次のやうなことに注意する。

(一) 降雨又は降霜、或ひは寒冷の夜等には、ガラス其の他のもので覆ふこと。

(二) 周囲には板、又は藁の類を用ひて、防寒設備をしておくこと。

(三) 日光を充分にあてること。(四) 水温を平均にさせること。

(五) 水温は攝氏十五度乃至二十二・三度を保つやうにすること。

(四) 飼 育 法

動物質の飼料としては、ボウフラ、ミジンコ、米ミミズ、魚肉、鰹節等がよいし、植物性飼料としては、素麵・麥飯・麥コガシ等がよい。

飼料のやり方としては、

1、素麵或は蕎麥は熱湯でゆでて、つぎに冷水にひたして良く油氣をあらひおとしてあたへる。之は、初秋即ち、九月ごろの飼料が適當である。

2、麥飯は普通に用ひる大麥を、食用にする程度よりか、更によく煮熟してあたへる。

3、麥コガシ、水にとかして糊のやうにしてあたへる。4、麩は、そのままあたへる。

5、鰹節は、削つて細粉としてやる。尙飼料を喰殘したら、必ず之をひろつてすてるべきである。給飼の分量は、一日に、その魚の大きさ位をやることで、多くやるよりか、少い方がよい。

尙、兒童は、すぐ手を水中へ入れたがるものであるが、入れさせないやうに注意する。

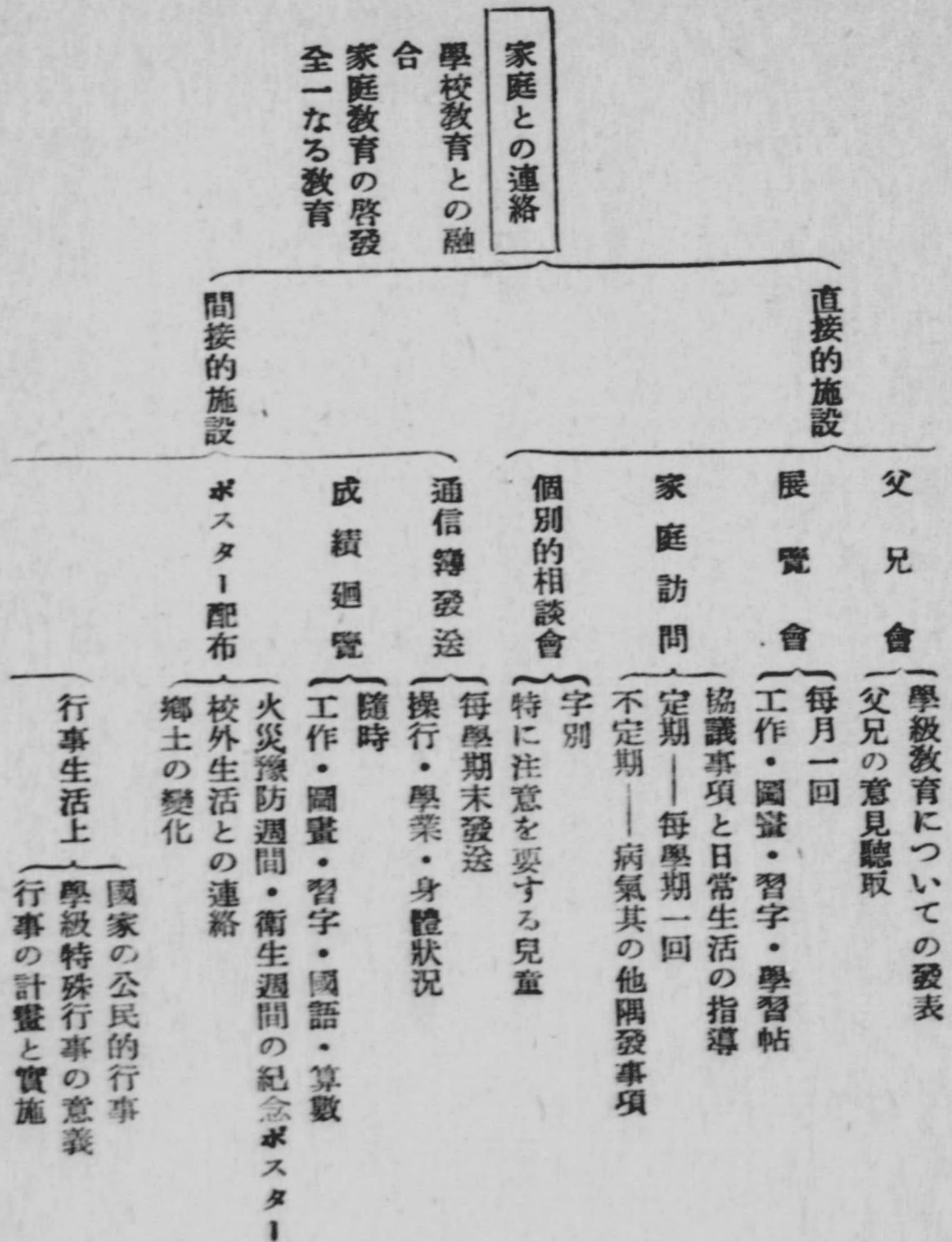
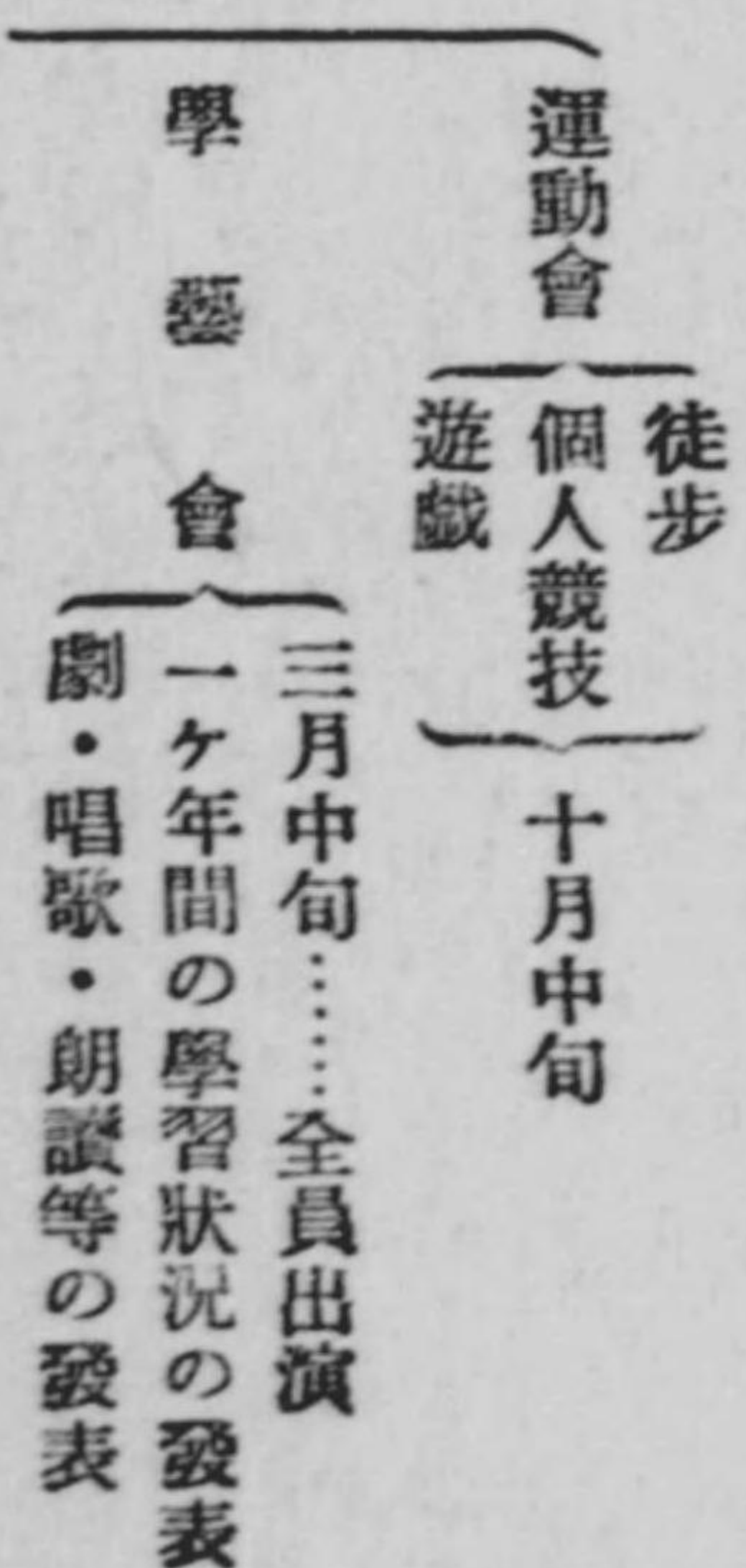


# 第九章 家庭との連絡細案

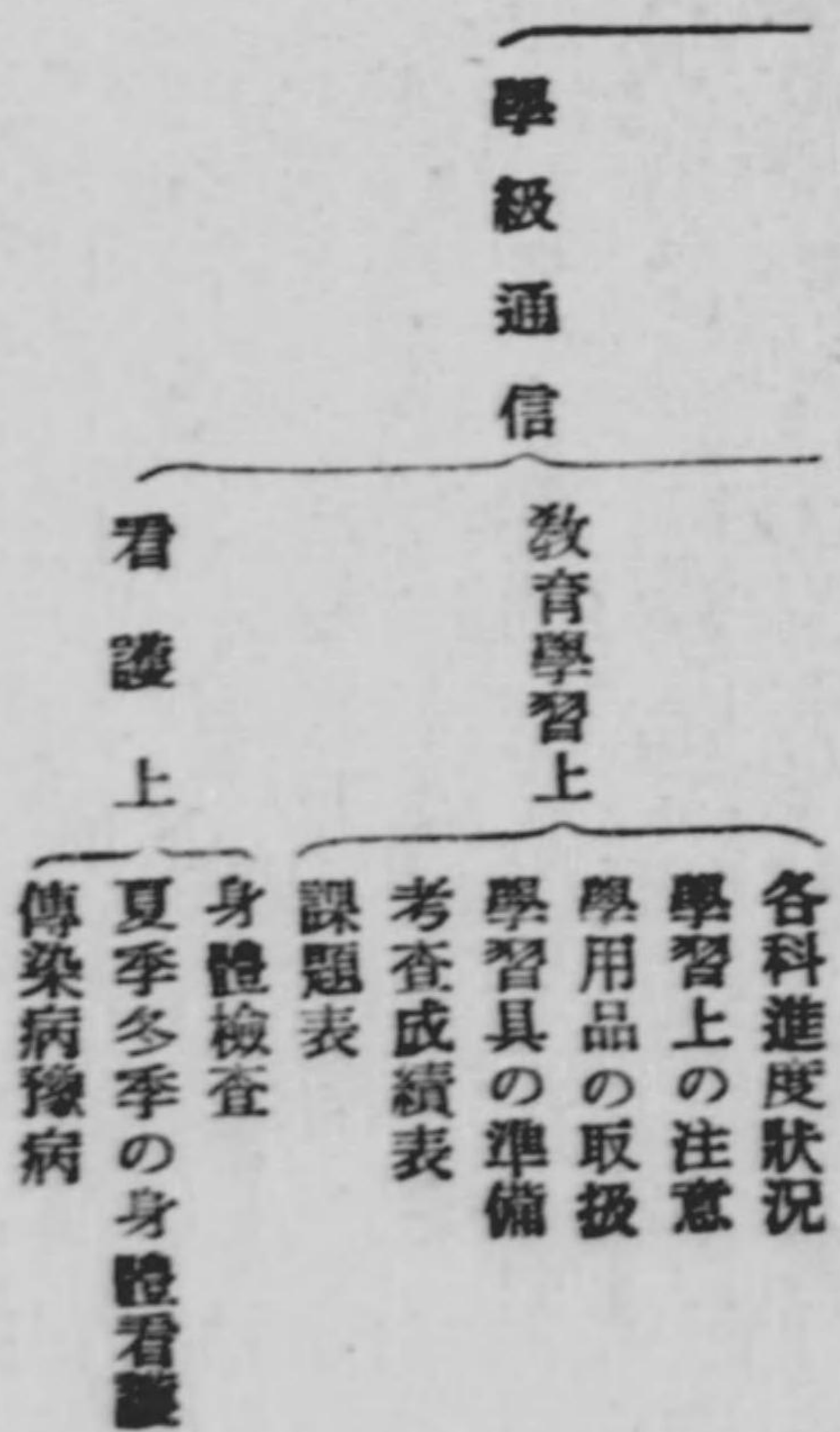
## 第一節 家庭との連絡

學級教育は、家庭教育との連携を待たずには成功しうるものではない。そのための施設としては次項の如きものがあるが、是等はすべて保護者をして、學校教育學級教育なるものを知らしめると共に學校家庭が兒童教育の上に於て一連の系統をなすやうにすることを目標とするものである。

## 第二節 「家庭との連絡」概略







### 第三節 「家庭との連絡」實踐細案

#### (一) 家庭學習を中心として

##### 一、家庭指導の吟味

國民學校の教育方針に「生活に即して」とあり、又「家庭及社會」との連絡を強調してゐるのであるが、従來の教育は、まことに教室のみの教育が王座を占め、家庭に於ける學習生活、連絡といふものが、主張倒れになつてゐる憾みが多分にあつた。これは一面保護者が、勉強とは、知的な事

項を覚えこむことと合點して、専ら其の方向に仕向け様としてゐることに基因してゐるが、學校側として眞の家庭學習とは如何に營まるべきかといふ方向なりプランなりを具體的に示さないことにもよるのではなからうか。とにかく兒童は、父兄から、母姉から、耳にたこの出来る程、「もつと勉強なさい」「この頃ちつとも勉強しないぢやないか」とせめられ通してゐる。然し、これらの言葉が、如何に兒童にとつて抽象的な空なものであるか。考へる餘地のないことである。それは、家庭で知的のことのみを重視し、學校では之に加へて情意の方面、集團訓練、作業訓練その他非常に多方面にわたつて教育分野を展開して考へてゐるのである。然して、初一・二ではまだ低學年として、學校にゐる間は、一日中の七分の一か八分の一位であとは大部分家庭にあるのである。そこで家庭にある間、各教科に於て、又、躰に於て如何なる生活姿態をとり如何に生活を組織すべきかを、もつとく具體的に指示し、父兄母姉にも、この觀點の大要を十分知つて貰ふ方法によらなければ、充分なる連絡はとれないのである。

##### 二、家庭學習の具體指導

單に家庭學習といつても範圍が廣く、第一は純良な生活態度の馴致即ち躰の問題、第二は個人的生活の充實に同時に社會的集團的生活の陶冶等の重要事項があり、更に學業一般に關する知的、情



意的事項等にわけて考へられる。

従來は、これらの事を、ひつくるめてたゞ兒童に「もつと勉強しなければ駄目」の一語で強壓されてゐたのである。

思へば、兒童も可哀相な立場におかれてゐた。初一・二あたりの兒童には、まだ組織的に見て、○一日の生活を、どうして進めて行つたら合理的道徳的であるか。

○日本人的生活の純化について日常のすべての問題に對し、どう裁いて行つたらよいか。

○國語なら國語の勉強でどんな順にどんなことをしたらよいか。

其の方法、分量、程度等がわかつてゐない。そこで(一)手引となるやうなものをプリントにして配つてやることである。それによつて、學習をさせ、家族のものからも批判や注意をうけ、所謂家庭學習をより充實してゆくやうにせねばならない。

### 三、家庭學習と躰

こゝに言ふ家庭學習とは學業のみではない。勿論、それも非常に大切ではあるが、初一・二に於ては「學業よりも躰」である。日本人的性格の構築即ち皇國民の錬成も、初一・二に於ける躰から出發する。しかし、徳目にあげられるやうな人生修養の諸問題は、學校といふ特殊な生活場に於て

は、中々具體的に其の赤裸々な姿態を示さないのである。むしろ、學校の往復とか、家庭とか、社會とかさういつた環境に於て、いつはらざる兒童の姿を具現する。その時こそ、陶冶に最もよい機會である。要するに躰は、大部分家庭に於て其の實際場面を展開するといへる。が兒童の家庭はどこでも、それぞれ生業にいそがしく、又教育的組織と、系統的指導といふ目的プランをもつてゐない。いはゞ場當な刹那主義的な指導に終り易い。これは實にやむを得ないことであり、教育専門家でないので、むしろ當然とさへいへる。

こゝで、學校としてはこれら躰の根本方針なり、主要眼目なり、初一・二として要求する程度なりを、なるべく詳細に、具體的に指示し、示唆し、其の向ふべきところを明示してやることが大切である。

尙言葉を重ねれば、躰は單に兒童にのみ要求すべきではなく所謂徳化といふ立場で、教師は勿論父兄、母姉全家族年長者の示範が最も望ましい。つまり兒童の全環境を教育的に統制秩序立て、やることが、大切で、言ひかへれば家庭の再教育にまで手を伸ばさなければ兒童の躰の十全は期しがたい。

### 四、宿題に對する配慮知



「先生、どうか毎日宿題をお願いします。宿題ならやるんですが、宿題がないとちつともいたしませんので……」

などと、よく熱心な保護者から言はれる。が、この點は家庭學習上、大いに吟味を要する。第一は、家庭學習とは刷物等による知的方面のことのみと解する點と、第二は課せられなければ勉強しないといふやうな惡習がつく點である。家庭學習の分野は「知的方面のもの」「表現教科に屬するもの」「作業」「一般躰に關するもの」等のあることを、父兄に十分知らしめておく。そして宿題も、これらの分野を適當に鹽梅して課し、單に知的なもののみによらぬ様に注意する。

### (一) 家庭への通信

學校と家庭にも連絡するために「學級通信」等を印刷にして配布する。學校の教育方針なり、擔任の教育上の抱負等を印刷して通信する。保護者の聲等も大いに加へてゆく。この通信は大部のものより、薄くても回数多くする。尙、學級より家庭に通信すべき事項は、根本方針としては變りはなくとも、其の材料方法上に於ては時々變化してゆくことが必要である。眞に學級經營上に生きた通信は、時々刻々其の必要に應じて發送されてこそその使命を達するのである。

初一・四月初めには、次の如き通信を發する。

○  
お母さん、愈々今日から、私がお子さんのお世話をすることになりました。字ををしへたり、本を読ませたり、ほめたり、すかしたり、その間には鼻をかんでやつたり、帯をむすんでやつたり、兒童たちの子守も仲々大變ですが、養父になつた私、出来るだけはやつて見ます。よい日本人を造るために……お父さんたち、が働いてゐらつしやるあの眞面目な、眞剣な心もちと同じ心もちで、のるかそるまでやつて見ます。ついでは大變お手數ですがこれからお子さんを育ててゆく上の参考として是非次のことを簡單にお知らせ願ひたいと思ひます。せつかくお子さんの養父になつても、お家の様子を、知らぬが佛では困りますから。

一、お子さんのことについておききしたいこと。

- (一) 今までに大病にかかつたことはありませんか。(二) いつもかかりやすい病氣はありませんか。(三) お子さんの得意なものは何ですか(例へば繪が上手だとか。自轉車にのるのが上手だとか)。(四) お子さんにどことなくせがありますか。
- 二、すまいについておききしたいこと。



- (一) 本籍は？
- (二) お子さんのお生れになつたところは、
- (三) 今までおこしになりましたか、おこしになつたらその場所と回数、
- 三、お家のやうす。

(一) お宅の人達を知らせて下さい。 (二) お宅でほかに學校にきてゐらつしやいますか。

(三) だれか他の學校へあがつていらつしやいますか。

四、おつとめについて。

(一) どこへおつとめですか。 (二) おつとめになつてから幾年になりますか。

(三) どんなお仕事をなさいますか。 (四) おたくでおつとめに出られる方はだれとだれで

すか。

五、お子さんを、お世話するに當つてどんなことを御注文なさいますか。

例へば言葉が悪いからなほして呉れとか、たべ物にすききらひが有るから直してほしいとか、  
其他の望みが色々あると思ひます。

### (三) 家庭訪問

家庭訪問には二重の目的がある。その第一は教師側のものであつて、教師が兒童の家庭を訪問す

ることによつて、兒童教育に關する基礎知識を得る方面である。即ち教師は之によつて個々の兒童の家庭状態、雰囲気、父母の教育観、環境等を知ることが出来る點に於て教育的意義がある。その第二には保護者側に屬することであつて、教師が家庭を訪問し而談することによつて保護者側をして學校觀、教育觀等に改造を來させ、學校、教師に對する信頼畏敬の念を高めさせるが如き教育的意義があるのである。

まことに、學校教育が兒童を對象とする限り、兒童の家庭を直接に見、家庭の保護者と直接に接し、保護者の口から直接に家庭の希望を聴くやうなことは教師としては先づ第一に必要なことである。又保護者の學校教育に對する理解は、近來一般には進んできたやうであるが、まだ保護者會といふやうな方法では充分に徹底させ得ない方面もあり、又さういふ保護者もある。

家庭訪問に於ける保護者との對談内容としては、訓練、養護、教授の各方面を用意するの要があり、更には學校教育の基礎となるべき兒童の過去の經歷家庭の事情等にも涉ることが必要である。家庭訪問に於ける對談時間は必要以上に長時に涉ることを絶對的に避けねばならぬ。理論的に見て必要あらば長時に涉ることは決して悪いこととは言へぬのであるが、多くの保護者中には、かゝる機會を利用して自家の子女のみ都合をよくせんとし不純な動機より教師に働きかけるものもな



いではなく、其他の理由よりも種々の不結果を招く恐もあるのである。

随つて家庭訪問の時刻、時間は教師の側としても餘程慎重に考へないと、その價値を顯揚すると共に弊害を醸成することもある。

#### (四) 保護者會

保護者會は、父兄會、母の會等の名で呼ばれることもあるが、こゝでは保護者會としておく保護者會には全級又は全學年兒童の父兄を一時に呼出す場合と部分的に呼出す場合とある。前者は何れかと言へば、學級なり學年なりの方針を全保護者に理解させたり全保護者に相談したりするやうな學級、學年の全體的活動を必要とする時に採る方法で、後者は、前者に對して個人的乃至部分的の要求を傳達したり、相談したりする時に採る方法である。何れにしても、教師が、呼出しの目的を明瞭に傳へ其の趣旨を體して參集するやうに計ることが大切である。

保護者會開催について、注意すべき事項をあげると、

- (一) 少くも一週間位前に會合の通知を發送しておくこと。保護者の都合もあるだらうから。
- (二) 保護者會の通知には會合の理由、日時、場所、協議、講話が題目等を明瞭に示すこと。
- (三) 期日、時刻の選定は、なるべく全保護者の集り易い日取時刻を選ぶこと。

- (四) 出来るならば協議、講話の要項を印刷しておいて、當日又はその以前に之を配布すること
- (五) なるべく豫定時刻に開會し、豫定時刻に閉會すること。
- (六) 協議、講話等は出来るだけ具體的に要點がよく分るやうに。要するに、家庭と學校が同一歩調の下に男女を教養して行くやうにするのであるから、多少の骨は折れても、その目的のために、最良の方法を工夫する必要がある。

### 初等科 一・二年 學級經營細案 — 終 —



昭和十六年五月三月初版印刷  
 昭和十六年五月八日初版發行

初等科  
 一二年級  
 學級經營細案(奧附)

定價金二圓五十錢



著者 島 國 民 學 校

東京市京橋區入船町三丁目三番地

發行者 藤 原 惣 太 郎

東京市京橋區入船町三丁目三番地

印刷者 葛 原 秀 一

發行所

東京市京橋區入船町三  
 振替東京一八五一三番

明治圖書株式會社

大 賣 所

東京 林平書店  
 大阪 文隆堂  
 京都 合資會社  
 名古屋 株式會社  
 東京 東海堂  
 東京 菊竹金文堂  
 東京 大坪博信堂  
 東京 都宮書店  
 東京 宇都宮書店  
 東京 澤野都宮書店  
 東京 長岡覺張書店  
 山口 白銀日新堂  
 柳原書店  
 大原書店  
 川瀬書店







263  
493



